Urban Design Center



目次

1	UDCM	設立3年間を振り返って	02
2	松山アー	ーバンデザインセンターの概要	03
3	空間デ	ザインマネジメント:「創る」	
	3 - 1	道後温泉活性化	08
	3 - 2	銀天街 L 字地区再開発	13
	3 - 3	花園町通り空間改変事業	15
	3 - 4	松山市駅前空間改変事業	16
	3 - 5	JR 松山駅西(仮称)南江戸第一公園整備	17
	3 - 6	三津浜地区景観まちづくり	20
	3 - 7	まちづくり2050ビジョン	21
	3 – 8	歴史文化まちづくり研究会	22
	3 - 9	若手経営者の生業とまち再生研究会	28
	3 - 1	0 松山交通研究会	29
	3 - 1	1 アーバンデザイン研究会	30
4	まちづ	くりの担い手育成:「学ぶ」	
	4 — 1	アーバンデザインスクールの概要	36
	4 - 2	松山アーバンデザインスクール	37
	4-3	伊予アーバンデザインスクール	46
	4 - 4	東温アーバンデザインスクール	48
5	賑わいの	の創出:「交わる」	
	5 – 1	みんなのひろば・もぶるテラスの運営	56
6		信:「知る」	
		まちなかマガジン「もぶる」	62
	6 – 2	ラジオ番組「まち @ ラヂ」	64
7	セカロリ	-	G.C.
7	おわり	, C	66

資料

UDCM 運営体制	68
活動フィールド	69
受賞・論文一覧	69
活動一覧	70

UDCM 設立3年間を振り返って

都市再生協議会会長 矢田部 龍一

UDCM も発足以来3年目を無事に終えることができた。 3数というと鼎立が思い浮かぶ。鼎立とは、3者が互いに 対立することを意味している。しかし、鼎は3点支持で あり、これで土器を立てることができる。そう考えれば、 鼎立とは3者が共同して支持するともとれる。

それでは UDCM の3年間はどうであったか。対立であっ たのか、協調であったのか、何れであったのか。UDCM は対立構造で成り立っているのではない。松山市と愛媛大 学、そして市民との共同で、まちの将来像が描かれ、まち づくり人材が育成される。UDCM の基本理念は協調であ

よちよち歩きの UDCM が、多くの方に愛され、助けら れて3年、やっと独り立ちできそうなところまで漕ぎつ けてきている。3年目の今年度は UDCM の取り組みが各 種の表彰を受けた。これは、UDCM の取り組みの成果と いうより、多くの方が愛してくれたことへのご褒美であろ

日本は高度成長期を過ぎ、高齢化社会への道を、そし人 口減少社会への道をひた走っている。それは、別に嘆かわ しいことではない。何れ世界の国々がたどる道をいち早く 走っているに過ぎない。人口が増加し、高度成長を遂げて いる時代のまちづくりと、高齢化社会、そして人口減少社 会を迎える今日のまちづくりは明らかに異なる。健康、福 祉、そして、環境保全などに配慮したまちづくりが求めら れる。

産業革命による経済発展がもたらされる前の日本のま ちづくりは、今のそれとはかなり異なる。今日の町を見渡 すと、道路は舗装され、上下水道も整備されて、暮らしや すさという面では昔と比べ物にならない。その代わり失っ たものもある。代表的なものは、自然ならびに潤いとゆと りに満ち溢れた街並みであろうか。安藤広重が描いたよう な東海道五十三次の光景は、どこにも見当たらない。葛飾 北斎の大胆な構図も、北斎が現代の町並みを見て育つと生 まれなかったかもしれない。

経済が高度に発展した日本、これ以上ない発展を遂げた 今日の日本、私たちは次の世代に、どんな宝物となりえる 町並みを残すことができるのか。松山の重要な観光資源と なっているのは、いうまでもなく道後温泉本館である。道 後湯之町の町長であった伊佐庭如矢が、老朽化していた道 後温泉の改築を決断し、竣工したのは1894年のことであ る。今から120年も前の貧しい小さな町が、実に大胆な 投資をしたものである。また、本館工事に際しては、町民 からの多くの寄付も寄せられている。120年も前の人た ちが汗水流して残してくれた遺産で、今の道後は潤ってい

120年前と比べれば、今ははるかに経済発展している。 しかし、私たちは120年後の人たちに何か残すために、 僅かでも汗をかいているのか。今こそ伊佐庭如矢のような 取り組みが求められる。UDCM の取り組みに、多くの方 の積極的な参加を期待したい。

松山アーバンデザインセンターの概要 2

平成26年2月松山市都市再生協議会とその執行機関で ある松山アーバンデザインセンター(以下 UDCM)が設立、 11月に銀天街の裏通りにオフィスと社会実験の「みんな のひろば」と「もぶるテラス」が開設されて2年半となる。 市民の憩いの場として設置された「みんなのひろば」は、 保育園児や中心市街地に居住する子育て世代、女学生に とってまたとない遊びの場、交流の場となっている。

「もぶるテラス」も最初は入るのをためらっていたが、 いまでは女性たちの格好のおしゃべりの場である。

この2つの社会実験の空間を利用して賑わいを創り出 す様々なイベントが実施され、最近では NPO や「てくる ん」に呼びかけ子育て世代向けのイベントに取り組んでい る。設置以前には見られなかった子供連れ家族や女学生の 来訪により、店舗出店などエリアの価値に変化がみられる ようになった。

広場の持つ魅力に改めて驚かされる。この広場はまちづ くりに関心のある多くの市民によるワークショップから 生まれたもので小さな丘と土管に手押しポンプ・噴水のあ るシンプルな芝生広場になったことが利用の範囲を広げ たようだ。

今年度は UDCM がこの 2 つの空間の運営を受託し、新 居田真美ディレクターが市民と連携して「お城下マル

シェ」や「絵本の読み聞かせ」、「レゴでまちづくり」、「広 場のファーム」など子育て世代向けのイベントに取り組ん でいる。

こうした活動が評価され、第2回まちなか広場賞・大 賞を受賞した。

UDCM のコア事業であるアーバンデザインスクールも 充実してきている。

4 大学の教員(愛媛大学羽鳥剛史准教授、小野悠助教、 松山大学河内俊樹准教授、聖カタリナ大学畔地利枝准教 授、松山東雲女子大学直井玲子講師)の指導のもと、まち づくりの担い手育成を目指し、学生から一般市民まで、ま ちへの思いを持った幅広い世代が集い、地元の関係者との 交流を深めながら、まちづくりの企画から実践に至るま で、まちづくりに関わる一連のプロセスを体験し、その中 でまちづくりの進め方を学んでいる。2年目となったアー バンデザインスクールでは、1期生がスタッフ的役割を担 い教員の負担を軽減している。これからも卒業生にはこの ような役割を担ってもらいたい。さらに、今年度からは、 東温市、伊予市においても地域性を活かしたスクール活動 が実践されている。

都市空間デザインマネジメントも UDCM のコア事業で







もぶるテラスで絵本の読み聞かせ

一番町大街道口の景観整備はアーケード所有者とコン サルタント、松山市の間に入り、デザイン面で協働し高評 価のアーケードとなった。

また、道後温泉地区の活性化計画づくりや椿の湯周辺景 観整備及びファサード整備、本館耐震化及び保存修理工事 等について市と協働研究を行い計画の深化・補強を図って いる。

中でも本館保存修理工事における仮設工事の在り方、本 館周りの交通規制については地域経済への影響が大きい ことから十分な検討がなお必要である。

中心市街地のL字地区再開発事業や花園町通りの空間 改変、三津浜地区の景観まちづくりにも参画し、UDCM が認知されるようになってきている。

さらに未来の夢を描く「松山 2050 計画」が市若手職員 と小野悠助教の協働作業で策定され、本年5月発表の予 定となっている。

これら UDCM の活動を市民に広報するツールとして FM 愛媛の「まち@ラジ」(水曜日 11:40~11:55) を 活用しているが、更なる広報ツールとして「まちなかマガ ジンもぶる」を発刊している。編集ワークショップでスキ ルを磨いた 15 人のメンバーが記者となって市民目線での まちづくり情報などを取材し、A5版12ページカラー刷り、 年 4 回、2,000 部の発刊を目指している。

こうしたアーバンデザインセンターの様々の取り組み が評価されて、グッドデザイン賞 2016 を受賞することが できた。

松山を好きになるためには街の歴史を理解しておくこ とも重要である。400年ほど前、加藤嘉明がこの地に城 を築き城下町が形成された。松山の都市計画の基盤はこの 時つくられたものである。以来、蒲生忠知の時代を経て松 平定行入府から徳川親藩となり 233 年を経て明治を迎え る。佐幕派の松山藩の若者はこの苦境をバネに立身出世を 夢見て東京へ旅立った。俳人の正岡子規や柳原極堂、高浜 虚子、外交官の加藤拓川、軍人の秋山好古・真之兄弟、大 蔵大臣となった勝田主計、グラフィックデザイナーの草分 けとなった杉浦非水、伊予鉄道の生みの親小林信近など、 時代の先駆者が現れた。

本年は子規・漱石生誕 150 年であり来年は明治 150 年 である。過去の歴史を振り返り、歴史の歩みから未来への 思索を深める手助けをすることも UDCM の役割の1つで ある。

さて4月から新たな体制でUDCMが再出発する。松山 市が抱える課題は多い。だからこそ UDCM が必要なのだ ろう。新メンバーの活躍を心から願っている。



アーバンデザインスクール



一番町大街道口





















3 空間デザインマネジメント:「創る」

「市民ひとりひとりが主役の舞台づくり」

日本最古の温泉地である道後やにぎわいの玄関口である一番町大街 道口などの空間デザインを提案するなど、地元の方々や行政の関係者 と連携しながら、地域再生のために魅力的な都市空間デザインの実現 に向けて取り組んでいます。



3-1 道後温泉活性化

道後温泉地区は、本館及び放生園周辺の道路景観整備(平成 16 年度~平成 20 年度)並びに道後温泉周辺ファサード 整備(平成 18 年度~平成 21 年度)により街の景観が整えられ、街なかを回遊する観光客が確実に増加した。

加えて平成26年度から開催されている「最古にして最先端・道後オンセナート」により回遊する女性グループが一段 と増加しており、こうしたことが評価されて「2016 アジア都市景観賞」を受賞、また、温泉総選挙 2016 では全8部 門のなかから「女子旅」部門第1位に選ばれるなど高い評価を受けている。

現在、建築が進んでいる道後温泉別館「飛鳥乃温泉」は愛媛国体に合わせ9月オープンが予定され、新たな観光拠点 となるのは間違いない。

一方、道後温泉本館の耐震化及び保存修理工事が愛媛国体終了後適切な時期に着手されることが予定されており、そ の工事の在り方について議論が行われている。

本館は国指定の重要文化財であることから、文化財としての価値を保存しつつ、修理工事の記録を適切に保存しなけ ればならないこと、入浴客の利用を許容しながら2期に分けて工事を行わなければならないこと等からきわめて長期間 の工事となることが予想される。

特に、周辺道路の交通規制はホテル街への影響が大きいことから素屋根工事の在り方には留意が必要であり、地元関 係者との話し合いが続いている。

こうしたことから重要文化財保存修理工事の素屋根の他市事例を調査することが必要であり、以下その調査結果を示 す。

1. 工事見学施設の設置

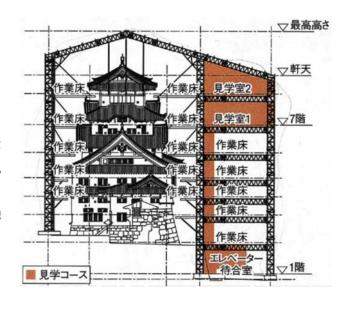
事例 1 姫路城(天空の白鷺)

姫路城では、天守修理工事に伴い、平成22年1月から 平成23年3月までの1年あまりをかけて、素屋根工事と 見学施設「天空の白鷺」が設置された。

素屋根構造は鉄骨造りで素屋根内部に見学施設が設けら れた。

この見学施設は建築基準法の適用を受ける建築物ではな く文化財保護法の適用を受ける仮設構造物と位置づけ、見 学施設が仮設構造物の中に設置された。。

道後温泉本館においても行政サイドの判断により仮設構 造物内に見学施設を設置することは可能であると考えら れる。



事例 2 日光山・三仏堂 (天空の回廊)

現在、三仏堂は約50年ぶりの大修理中であり、改修期間は平成19年~平成30年である。重要文化財の保存修理工 事のため、素屋根が架けられているが、大修理の見学のため、「天空の回廊」が最上階 7 F に設けられている。日常では 見られない仏像や資料が展示されているため、400円の入館料にもかかわらず多くの観光客が入館している。仮設と一 体となった見学施設であるが、完全に区分されているため、ヘルメットなしで見学できる。

「天空の回廊」のように上空から自由にいつでも修理現場を見学できることは観光客にとって魅力である。 しかし、公道に囲まれた狭小な空間に設置可能か十分な検証が必要である。





事例3 門司港駅(見学デッキ)

工事箇所の周りに、素屋根内や工事ヤードの見学ができる見学デッキを整理した事例

国の重要文化財の門司港駅が平成25年9月29日から保存修理工事が行われた。白い素屋根で覆われていたが工事中 に駅舎を見学できる専用デッキが設けられ、素屋根側面の透明なアクリル板の部分から作業の様子が見学できた。デッ キ入り口では工事現場の中継映像を見ることができるタブレット端末を無料で貸し出すサービスがおこなわれた。アク リル板の活用や仮囲いを利用した情報発信やタブレット端末での工事情報の発信は参考となる。







2. 仮設工事の修景化

仮囲いのスケルトン化など修景化を行うことで、工事風景を楽しむ。

事例 4 高野山中門

高野山開創 1200 年を記念する事業として 1843 年に消失した伽藍・中門が再建された。

施工中の様子を多くの人に知ってもらいたいという施主の希望から、外周をポリカーボネート製の透明板で施工され ている。中門が完成していく過程を観光客に見せることが可能となった。また、「見せる」工夫の一環で「作業館」も設 置された。中門再建に関する資料展示と木材加工場があり、一般客は加工の様子を見学することができた。

道後温泉本館保存修理工事においても同様に工事そのものを「見せる」ことが考えられるが、修理工事を「見せる」 価値があるのか、耐震化の工事は、ごく一般的な補強工事であるため見せ方の工夫が必要である。

例えば屋根裏には明治時代の擬洋風建築物に見られるトラス構造が組まれており、設計者の坂本又八郎が当時の西洋 の技術にも明るかったことを示すものとして展示することが考えられる。





事例 5 仁和寺(木足場)

京都府では、歴史的建造物だけでなく丸太足場による素屋根工法そのものを後世に伝承すべき技術であると捉え、府 庁内に丸太足場の技術者を育成している。

また、丸太材の収集・保存・施工などに関わる専門業者は仮設工事の分離発注により保護され、こうした行政サイド の努力により、丸太足場による素屋根工法が継承されている。どのような組み方も可能で柔軟件に富んだ丸太足場によ る素屋根は観光資源としてインパクトがあるものの、メッシュシートで覆われると外部からは丸太足場の美が見えなく なってしまうことが難点である。

道後温泉本館での施工を考えると、①木足場に対する知識やノウハウが不足しており、適正な仕様書作成が困難であ ること、②施工可能な業者を京都府に求めなければならないこと、③本館敷地が狭小で周囲に空間がなく、作業ヤード の確保や転倒防止対策が困難であること、④準防火地域であり慎重な防火対策が必要であることなどを考慮しなければ ならない。





事例 6 富岡製糸場(建物プリント)

仮囲いに建物をプリントするなど配慮した事例で、西置繭所をそのまま拡大したかのように錯覚する。現場の臨場感 を持たせるため、あえてヘルメットを着用させている。

同じタイプの東置繭所が隣接しているため東置繭所を見学すると西置繭所を見学することなく帰ってしまう観光客が多 いため「工事現場を見学する」という希少性をアピールしている。プリントした余白をなくすることで写真感をなくし ている。

道後温泉本館は、唐破風や千鳥破風の屋根の複雑な景観が観光客に感動を与えているが、プリント技術でどこまで本 物感を出せるのか疑問である。





3. 工事中の交通規制の一例

図は、工事中の交通規制の一例であるが、作業ヤードの確保のため赤線で囲ったエリア(県道半断面占用)を工事エ リアと考えると、本館周りの県道部分は片側通行となる。

当然、信号処理(ガードマン常駐配備)で車両を制御することとなるが、本館北側の信号設置により渋滞が考えられ、 県道に隣接するホテルの宿泊客の車の出入りに支障が出るものと考えられ、その渋滞長を研究しておく必要がある。

歩行者は、本館南・東の区域には立ち入れなくなり、冠山駐車場や東側ホテル・旅館への通行に不都合が生じてくる。 もし、県道部分の半分の占用が許可されない場合は作業ヤードを本館敷地内に納めなければならず、必要となる作業 空間を上空に向かって確保することとなり作業の効率性が著しく低下し工事期間の延長となる恐れがある。このような ことから、交通規制と仮設工事の在り方はなお十分な検討が必要である。



3-2 銀天街 L 字地区再開発

1. 行政による基本計画策定と地元住民による構想づくり 松山市の中心市街地のど真ん中に位置する銀天街L字 地区の再開発は、松山市都市再生協議会のもとに置かれた 「銀天街 L 字地区再開発検討専門部会」(平成 27 年 11 月 発足) での検討に加えて、先行的に発足した地元住民によ る「松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会」(平成 27 年 5月発足)でも並行して議論が行われた。UDCMでは、再 開発検討専門部会に委員として参加するとともに、地区再 開発全体協議会については、事業支援のための専任的ディ レクターを配置し、住民の要望把握や協議会運営の支援に 努めた。

専門部会では平成28年秋に基本計画をとりまとめ、年 末にはパブリックコメントを踏まえた「銀天街L字地区 再開発等基本計画」が市から発表された。基本計画では、 将来ビジョンとして「暮らしと賑わいの共生・・・松山の 新たな『交流核』」を掲げ、都市機能の構成、再開発のシ ナリオ、交流核のイメージを示すとともに、特に実施に向 けた体制づくりの必要性を唱えた。

一方、地元の全体協議会では、理事会や専門部会の議論 を踏まえた再開発ワークショップを開催して意見を集約 した。そして2回の臨時総会を開催し、概ね市の基本計 画に沿う形で協議会のまちづくりの方針である「松山銀天 街L字地区全体構想案」を了承した。以下その概要である。

【再開発の目的と意義】

生活と集客の交流拠点・銀天街L字地区

【再開発の方向性】

- ①賑わいを創出する魅力あるまちづくり
- ②様々な人々が集い交流するまちづくり
- ③ストリート性と界隈性を持つ商店街の魅力づくり
- ④ゲートウエイ機能としてのアクセス環境づくり
- ⑤住み続けられる安全・快適のまちづくり

【再開発の進め方】

方針①合意形成が得られた区毎に複数の再開発・共同化を 段階的に推進

方針②地区計画等の制度を活用して、規制緩和とルールづ くりによる建物更新

今後は、各ブロックの再開発や建て替えが進むことが予 想されるため、この方針の了承の下に、地元全体協議会を 発展的に解消し、再開発等に伴う連絡調整機能を維持した 「銀天街 L 字地区再開発連絡協議会」へと改組した(平成 29年2月)。

連絡協議会は、既に再開発の草案を発信している地区や 漸く協議会を発足させた地区など、進度に差のある状況を 踏まえて、今後の再開発の動きを地元自ら調整しようとす るもので重要な役割を担うものと思われる。UDCM には 個別協議会のコーディネート業務や、連絡協議会の支援等 についてアドバイザー的役割が期待される。

もう一つの再開発実施に向けたものとして期待される のが、市民全体で交流核を考える仕組みづくりである。市 の「L字地区期再開発等基本計画」では、そのために「市 民サポート会議(仮称)」として提言した。地元・使い手・ 民間・行政など様々な関係者が参画し、協働でまちづくり を推進していくものである。UDCM には使い手の一人と して参画するとともに、ここでも運営の一翼を担う役割が 求められる。

2. 街なか再生サポーター会議の発足

「街なか再生サポーター会議」は、「銀天街L字地区」 の都市再生について、市民、民間、地元関係者、行政が一 緒になって考え、意見交換を行う場である。全7回の開 催を通じて、全国の先進的な取り組みを学び、「誰もが訪 れたくなる魅力的な多世代交流の場」を実現するためのコ ンテンツや仕組みを提案する。

平成29年3月25日に、第1回目の街なか再生サポー

ター会議が開催された。

表 第1回街なか再生サポーター会議開催概要

開催日時	平成 29 年 3 月 25 日 (水) 14:00 ~ 16:30			
開催場所	UDCM1F もぶるテラス			
参加者	33名			
プログラム	レクチャー1:「銀天街界隈の歴史」(松本シニアディレクター) レクチャー2:「地域デザインとは」(松村プロジェクトアドバイザー) まち歩き:湊町3丁目~河原町~千舟町3丁目 グループワーク:①まちの「良い点」「悪い点」、②「来たい」「住みたい」まち			

第1回目はガイダンスということで、まちの歴史や地域 デザインについてのレクチャー、まち歩きを行い、グルー プごとにまちの現状や今後どうなったらいいか、などにつ いて意見交換した。

最初に、松山市都市デザイン課が、L字地区の再開発に 向けたこれまでの経緯と街なか再生サポーター会議の役 割を参加者に説明した。その後、松本シニアディレクター が、過去の地図を読み解きながら、銀天街界隈の歴史的変 遷について解説した。続いて、松村プロジェクトアドバイ ザーが、「Belonging」という絵本を題材に、まちを「カネ」 「モノ」「セイド」といった観点だけでなく、「くらし」「ひと」 「いのち」といった価値的視点から考えることの大切さを

お話した。レクチャーの後、銀天街L字地区周辺のまち 歩きを行い、最後に、グループごとに分かれて、①銀天街 L字地区の「良い点」「悪い点」、②「来たい」「住みたい」 と感じる機能(施設)について意見交換した。

グループワークでは以下のような意見が出された。

- ・「良い点」として、「老舗や個店など地元ならではのお店 が多い」、「路地裏など歴史を感じられる空間がある」、「ゴ ミが落ちていなくて清潔だ」、「若者がたくさん歩いてい る」、「みんなのひろばで新しい活動が生まれている」と いった意見が挙がった。
- ・「悪い点」として、「休憩できる場所がない」、「緑が少な い」、「駐車場が不便」、「駐輪場が少ない」、「エミフルのよ うに長くは滞在できない」、「暗いイメージがある」などの 意見があった。
- ・「来たい」「住みたい」と感じる機能については、「公共 のスポーツジムや自習室などのちょっとした居場所」、「休 憩できる場所」、「運動場」、「緑・広場」、「ある程度まとまっ た便利な駐車場」が欲しいという意見、「無駄に歩かせる 空間があったらいいんじゃないか」、「スーパーマーケット やホームセンター、おもちゃ屋など、個人経営では難しい お店も必要だろう」といった意見も挙がった。

今後、月1回のペースで開催し、最終的には、グループ ごとのアイデアを、模型等を使って「見える化」すること で、再開発等に反映させていくことを考えている。





ワークショップの様子 まち歩きマップ

3-3 花園町通り空間改変事業

松山市は、「歩いて暮らせるまち」を目指し、コンパク トで質の高い集約型都市の形成を進めている。市の中心部 は、戦災復興土地区画整理事業によって広幅員の道路整備 が行われているため、都市改変事業によって自転車や歩行 者の空間を創出することが可能である。

花園町通りは、ターミナル駅である松山市駅と、松山城 のふもとに広がる城山公園を結ぶ、延長 250m の通りで ある。市内電車の複線軌道と、車道4車線と副道2車線 を含む幅員 40m の市内最大の道路である。平成 12 年に、 城山公園から球場や競輪場といった集客施設が郊外移転 したこともあり、衰退が著しく、活性化が望まれてきた。 沿道の商店街はアーケードの老朽化による暗い歩行環境、 大量の放置自転車、多くの空き店舗、有効に活用されてい ない副道などの問題点が顕現している。

そのため、平成23年から、この花園町通りを「歩いて 暮らせるまち」のシンボルロードとして、歩行者や自転車 に優しい、にぎわいとくつろぎのある空間に再編するた め、地元協議が重ねられてきた。懇談会やワークショップ を開催して空間のプランニングやデザインについて議論 を展開し、社会実験を経て、合意形成が図られた。現在、 平成29年度中の完成をめどに、自動車の車線の一車線化 と、自転車道と歩行者空間の創出の工事が進行中である。 また、道路整備に合わせて、沿道のファサード整備や電線 類の地中化など、景観整備も進んでいる。UDCM がデザ イン支援を行ってきた沿道のファサード整備は、平成28 年度7月に完了している。

UDCM は、松山市から委託を受けて、花園町通りの歩

道空間の活用や管理のあり方を検討するワークショップ を開催し、地元関係者、一般市民、学識経験者で議論を重 ねてきた。平成27年度に3回のワークショップを開催し、 平成28年度には、最後となる第4回目のワークショップ を開催した。

表 第4回花園町通りワークショップ開催概要

開催日時	平成 28 年 10 月 15 日 (土) 13:30 ~ 15:30
開催場所	松山市役所第4別館1階会議室
参加者	36 名(内、一般参加者 16 名)

最初に第1回から第3回までのワークショップの議論 を振り返った後、2グループに分かれて、植栽を含めた歩 道空間の利用・管理方法について話し合いを行った。

グループワークでは以下のような意見が出された。

- ・町会が分かれている東と西が花園町として一緒に交流の 場づくり、植栽の管理、日常の提案等を行っていきたい。
- ・いいデザインになっているものの行く目的がないため、 イベントなど空間をどのように使っていくのかが大事。
- ・利用者が増えると、ゴミ問題、喫煙場所、吸い殻がたく さん捨てられるのではないかという危惧もある。どのよう な使い方をするのか、管理のルールをどうしていくのかと いったことをこれから考えていく必要がある。

ワークショップ終了後、腐蝕のため撤去した花園町通り の銀杏1本を活用して作成した木札に、正岡子規の字体 を使用した「花園町通り」の焼印を行う DIY を行った。







ワークショップの様子 2 焼印 DIY

銀杏の木札.

3-4 松山市駅前空間改変事業

伊予鉄道・松山市駅は、松山市の実質的な中心駅であり、 3路線が市内に放射状に延びている。駅ビルには四国最大 の百貨店である「いよてつ高島屋」が入居し、周辺には繁 華街やオフィス街が広がっている。駅前には、松山市内線 の電停、バスターミナル、タクシープールなどがある。

松山市駅は、1888年に、現在とほぼ同じ場所に、伊予 鉄道・松山駅として開業した。1927年に国鉄・松山駅が 開業することになったため、松山市駅に改称された。現在 の5階建ての松山市駅ビルは1971年に完成した。また、 駅ビルの西に隣接する6階建ての伊予鉄西ビルは1966 年に、駅前広場下の地下街「まつちかタウン」は1971年 に完成したものであり、いずれも老朽化が進むとともに、 時代に合わなくなっている。

UDCM は、松山市駅前空間のあり方について、松山市 から委託を受け、地権者や市民、交通事業者等が参加する ワークショップを開催してきた。平成27年度に開催した 2回のワークショップに続いて、平成29年2月15日に 最後となる第3回目のワークショップを実施し、駅前空 間の6つのレイアウト案をもとに、空間的な配置や活用方 法について意見交換を行った。

第1回、第2回のワークショップを振り返った後、駅 前空間の6つのレイアウト案について模型等を活用しな がら説明を行った。その後、グループごとに、各レイアウ ト案に対する意見や活用について意見交換した。

表 第3回松山市駅前広場ワークショップ開催概要

開催日時	平成 29 年 2 月 15 日 (水) 14:30 ~ 16:00
開催場所	UDCM1F もぶるテラス
参加者	21 名
目的	松山市駅前広場のレイアウト案に対する意見 や活用についての意見交換

グループワークでは以下のような意見が出されるなど、 活発な議論が展開された。

- ・市駅前広場の整備においては、周辺の商店街を意識した 整備が必要。
- ・交通機能としては、バス乗降場の集約化や電停と郊外線 コンコースの近い配置案が良い。
- ・市駅前に大きな広場があると、子供や高齢者の憩いの場 やアベックがくつろいだりする場など、様々な人が集まる 場として定着させることができ、それによって、まちへの 愛着が醸成されるので、市駅前広場はそんな場になって欲 しい。
- ・様々な立場の意見がある中で、まずは、"市駅前を車か ら人に取り戻す"という大きなコンセプトを共有し、その 後、細部についての議論を進めていく必要がある。
- ・高齢者に配慮し、県病院とのつながりも良くすべき。

松山市駅前空間の将来的なあり方については、引き続き 地権者や市民、事業者との意見交換を通じて検討していく 予定である。



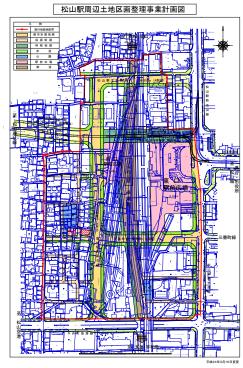




3-5 JR 松山駅西(仮称)南江戸第一公園整備

松山市の中心市街地の西端に位置する JR 松山駅は、 陸の玄関口として広域交通の結節拠点となっている。しか し、駅舎と駅前広場は昭和28年の改築以来、ほぼそのま まの状態であり、駅舎は老朽化し、駅前広場はバス、タク シー、自家用車で混雑している。駅西側では狭小な道路や 行き止まり道路が存在し、身近な公園がないなど、都市基 盤整備が遅れ、スプロール的に宅地化が進んでいる。また、 駅東側は商業・業務系の土地利用となっているが、駅西側 とは線路で分断され、一体的な発展が阻害されている状況 である。そこで、JR 松山駅の広域交流拠点機能と利便性 の向上を図るため、鉄道高架と土地区画整理事業を行い、 合わせて周辺の街路整備等を進める計画が進んでいる。

「(仮称) 南江戸第1公園」は、愛媛県と松山市が進め る、松山駅周辺土地区画整理事業で駅西側に新たに整備さ れる街区公園である。面積は 0.17ha、周囲を 6m 道路に 囲まれ、南東角地に集会所が立地する予定である。この 公園を地域住民から親しまれる公園にするため、住民ワー クショップを開催してデザインの検討を行ってきた。平成 28年度に全3回のデザインワークショップを開催し、ゾー ニングと設置施設の検討を行い、施設配置計画(案)を決 定した。



事業計画と公園予定地

第1回デザインワークショップ

開催日時:平成28年9月11日(日)15:00~17:00

開催場所:本村集会所

参加者:南江戸本村地区住民33名

目的:ゾーニングの提案①

南江戸本村地区の住民33名が4つのチームに分かれて、「新しい公園をイメージしよう」をテーマに、それぞれ公園 にほしいものや公園でしたいことなど、理想の公園について話し合い、コンセプトや大まかな配置を提案した。

ワークショップの結果として、最もスペースを要する「運動ゾーン」(運動スペース、芝生広場等)と「遊ぶゾーン」(複 合遊具、遊具、砂場等)の配置で2つの意見があがった。一つは「運動ゾーン」を北側(集会所と離れた側)に設置する案、 もう一つは「運動ゾーン」を集会所側に設置する案である。後者の案はお祭りや避難訓練の際に、集会所と運動ゾーン を一体的に使うことを念頭に置いた案であり、集会所と公園の機能との関係性がゾーニングの議論の中心となった。また、 「休憩ゾーン」(東屋、ベンチ、水飲み場等)は、「運動ゾーン」と「遊ぶゾーン」を空間的に区別する目的と、公園全体 を見渡せる場所という視点から、公園の中央付近に配置する意見が多く出た。さらに、「花・緑のゾーン」は公園の周り 及び空いたスペースに配置された。

他に議論の中で、ボール遊びを可能にする、ボール遊びと防災対策として運動ゾーンを広く取りたいという意見が多 数出たことが特徴としてあげられる。今後公園のデザインを具体化していく上で重要なポイントになるであろう。







ワークショップの様子

第2回デザインワークショップ

開催日時:平成28年11月27日(日)15:00~16:40

開催場所:本村集会所

参加者:南江戸本村地区住民27名

目的:ゾーニングの提案②

南江戸本村地区の住民 27 名が 4 つのチームに分かれ、第1回デザインワークショップで提案したコンセプトとゾー ニングを、模型を使いながら具体化していった。

ワークショップでは、限られた空間の中で、遊具やベンチ、植栽などをいかに配置するかということに頭を悩ませる 姿が見られた。特徴として、「遊ぶゾーン」あるいは「運動ゾーン」と、集会所を補完的に使うための工夫が見られたこ と、また、子どもからお年寄りまでみんなが楽しめるようにするために健康遊具を置いたり、遊歩道を作るなどの配慮 が見られた。遊具はターザンロープや複合遊具、古典的なブランコや鉄棒が人気であった。







ワークショップの様子

第3回デザインワークショップ

開催日時:平成29年3月12日(日)15:00~16:30

開催場所:本村集会所

参加者:南江戸本村地区住民19名

目的:配置する施設の提案

まず、第1回、第2回ワークショップで4グループから出された提案を集約した施設配置計画案が松山市から提示・ 説明された。その後、配置する遊具と植える木をシールによる投票で決定した。遊具は複合遊具、ブランコ、健康遊具 についてそれぞれ2~4の候補の中から、機能や施設サイズを考慮しながら1つに絞り込みを行った。一方、植える木 は、桜をシンボルツリーとすることが決まっていたため、エドヒガンとソメイヨシノで投票を行ったところ、歴史性や 病気への耐性、開花時期、花びらの色合いなどの観点から、僅差でソメイヨシノに決まった。また、コミュニティモデ ル花壇についても住民からの希望により、設置する方向で決まった。最後に、公園の名前についてアイデア出しが行われ、 最終的には、最も一般的な名前の付け方である「『地区の名前』+公園」で、「南江戸本村公園」に仮決定された。

3-6 三津浜地区景観まちづくり

「三津浜地区景観まちづくり」は平成26年度の学習会 から始まり、今年度の2回を加えて計6回を数えることと なった。この間、まちづくりにおける景観づくりのポイン トについての学習やまちあるきを通して、歴史ある古い港 町の景観の重要性について、地域の方々も認識してきた。

28年度の学習会では「三津浜地区景観まちづくりデザ インガイドライン (素案)」の確認の下に、三津浜景観計 画づくりを進め、景観計画区域の指定に向けた検討を行っ た。

三津浜における「良好な景観の形成に関する方針」は以 下である。

- ○地区住民や来街者がまちなみや歴史的資源を楽しみな がら回遊できるよう、移動空間における景観を形成
- ○地区住民が生活を営む場となっている風情ある生活景 観と歴史的な景観資源等が融合するよう、まちなみの調 和に配慮した景観の形成
- ○地区内における歴史的な景観資源を保全・活用すると ともに、それと調和するような古民家の再生など、地区 の拠点となる景観を創出

この方針の下に景観計画の具体的内容とその区域につ いて、今後、合意形成を図っていくことになり、本年度後 半は、三津浜地区まちづくり協議会等を通じての地域住民 に対する景観計画の説明が継続中である。従って、三津浜 景観計画の策定とその区域設定については次年度以降の 作業予定である。

ところで、三津浜の景観形成に係わる古民家再生等に関 しては、着実に成果が積み重ねられている。

松山市の「美しい街並みと賑わい創出事業」による助成 では、先年には味噌醤油を扱う田中屋(三津3丁目・平成 25年度)、嘗て今治商業銀行であった山本船具店(三津 2丁目・平成27年度)が改修され、継続的に商いを続け るべく活用されている。28年度には吉川製菓の蔵(三津 3丁目)が菓子型や民具を展示した三津にまつわるミニ博 物館として生まれ変わっている。また、市の委託事業であ る「三津浜地区賑わい創出事業」を受けた「ミツハマル」 が、旧濱田医院(住吉2丁目・大正期の洋館建築)を改修し、 平成28年にミニマーケットを立ち上げている。

そして28年度の「第10回まつやま景観賞」では、田 中屋が「きらめき大賞」、旧濱田医院が「きらめき奨励賞」 を受賞した。景観を形づくる拠点が目に見え始め、三津の 景観計画づくりの励みとなっている。







山本船具店

田中屋 旧濱田医院

3-7 まちづくり2050ビジョン

松山市は豊かで温暖な気候に支えられているものの、少 子高齢化に伴う経済の衰退、社会保障費の増大など社会的 課題を抱えている。また一方で、四国最大の中心市街地は、 市街地の郊外化による空洞化が懸念されるほか、都市基盤 施設が老朽化したり、時代に合わなくなったりするなどし て更新の時期を迎えている。自治体が厳しい財政状況に直 面する中、福祉のまちづくりと都市施設の整備の整合を図 ることが不可欠である。

「松山市まちづくり2050ビジョン」は、松山市と UDCMが、松山の約30年後の魅力ある未来を展望し、自 由な発想のもとで検討を進めるものである。2016年5月 に、UDCM ディレクターと、松山市の総合政策部、保健 福祉部、都市整備部、開発建築担当部、産業経済部の若手・ 中堅職員でワーキンググループを形成し、松山の現状把 握・分析、既存計画の整理、全国の先進事例の視察調査を

行い、議論を深めてきた。健康・福祉・子育てを重要テー マに設定し、都市計画と福祉、ハードとソフトを連携させ た横断的・総合的なビジョンを検討している。

松山は50万の人口を有する地方中核市でありながら、 人や地域社会の繋がりが残るまちである。誰もが健康で、 賑わいに溢れ、安心して子育てができ、"いつまでもこの 街で暮らしていきたい"と思えるようなまちを実現するた めには、世代がつながる、地域がつながる、人がつながる、 移動がつながる、時代がつながる等、様々な「つながる」 を継承・発展させていくことが大切である。

今後、このビジョンを素材として、市民や民間事業者等、 様々なところで議論が展開され、このビジョンが磨かれて いくことが期待され、そのための仕組みづくりを公・民・ 学が連携する UDCM が担っていく必要がある。



歴史文化まちづくり研究会 3 - 8

1. 声優ワークショップの開催

「漱石松山赴任 120年」、「漱石没後 100年」に続き、 本年は「子規漱石生誕 150年」、来年は「明治 150年」 という節目の年が続くなか、明治という時代に高い志を掲 げ果敢に時代に挑戦した子規・漱石たちの時代精神を受け 継ぎ、明日のまちづくりに奮闘する若者たちをテーマとし たラジオ音楽ドラマ「架空のまち」を昨年に引き続き FM 愛媛と協力して放送した。

声優・森一馬氏による声優ワークショップを開催し、「架 空のまち」の台本を使って訓練を重ね、FM 愛媛スタジオ で収録に臨むという方法をとった。

参加者は、声優、アナウンサー、MC、ミュージカル志望 や発声力のアップを目指す大学生から高齢者までの幅広 い年代層 46 人である。

このプロセスにおいて、仲間意識やまちづくりへの参加 意識が醸成されていくことを期待している。

ワークショップの開催要領は表1のとおりである。

【台本内容】

まちづくりをテーマとしたラジオドラマ。物語はまちづ くりセンターに集まった大学講師や学生、行政担当者を主 人公に、商店街の店主らを巻き込みながら、正岡子規や夏 目漱石が暮らしたまちの雰囲気を蘇らせ、中心市街地に活 気を取り戻していこうと奮闘する物語。

まとめ

声優ワークショップに参加した40名が出演したラジオ 音楽ドラマ「架空のまち」が1月3日FM 愛媛で正午か ら放送された。

講師の森一馬氏に指導を受けた元気のある声がラジオ から流れ十分な達成感を味わった。全員素人のメンバーが 訓練を重ねた結果、素晴らしい音楽ドラマに仕立て上げ ることができ、やればできるという大きな自信につながっ た。



募集チラシ

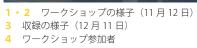
表1 ワークショップ概要

	び トーノーノフヨフノ帆女
公募期間	平成 28 年 9 月 10 日~ (定員 40 名になり次第締め切る。)
声優ワークショップ	第1回 平成28年10月22日(土)、 23日(日) 第2回 平成28年11月12日(土)、 13日(日)
収録	平成 28 年 12 月 10 日 (土)、11 日 (日)
放送	平成 29 年 1 月 3 日
参加人員	46名(19歳~61歳)
参加申込先	UDCM ドラマ事業部へのメールによる申 し込み
主催	松山アーバンデザインセンター
共催	愛媛大学防災情報研究センター、FM え ひめ
後援	松山市、まちづくり松山
指導者	森一馬氏
音楽	小林智詠氏











2. お城下大学 俳都松山の文化・観光のまちづくり

お城下松山主催で開催しているお城下大学の開催を支援した。子規・漱石生誕150年の節目の年に向け、文化の薫り が息づく松山の価値を内外に発信していく必要があることから、お城下松山と連携して4回のお城下大学を開催した。

第 10 回 お城下大学 俳都松山の文化・観光のまちづくり

~体感できる「文学のまち」づくり~

開催日時:平成28年9月22日(日) 14:00~16:00

開催場所:坂の上の雲ミュージアム

参加者:48名

コーディネーター:鈴木茂(松山大学教授)

パネリスト: 今村威(松山子規会)/熊野伸二(NPO山頭火倶楽部理事長)/武内哲志(松山坊っちゃん会会長)/

松井忍(NPO庚申庵倶楽部理事長)

松山文化の代表的なパネリストから松山文化の意義や活動などが紹介された。





お城下大学の様子

第11回 お城下大学 俳都松山の文化・観光のまちづくり

~私の俳句甲子園~

開催日時:平成28年11月6日(日) 14:00~16:00

開催場所:松山大学 820番教室

参加者:約80人

コーディネーター: 小西昭夫(愛媛新聞文芸特集俳句選者)

パネリスト:岡本治(NPO法人俳句甲子園実行委員会会長)/森川大和(愛媛県立松山東高等学校教諭俳句部顧問)

甲子園立ち上げ時の苦労話や高校生の参加までの大変さ、敗者となったとき、せっかくの句作が発表できない辛さな ど俳句甲子園の裏話が披露された。







第 11 回お城下大学の案内チラシ

2・3 お城下大学の様子

第 12 回 お城下大学 俳都松山の文化・観光のまちづくり ~アートでつくる松山のまち~

開催日時:平成28年12月15日(木) 19:00~21:00

開催場所:シアターねこ

参加者:約80人

コーディネーター: 郡司島宏美 (愛媛大学女性未来育成センター准教授)

パネリスト:日野二郎(株式会社まちづくり松山代表取締役会長)/徳永高

志(アート NPO カコア代表)/鈴木美恵子(シアターねこ代表)

「中心市街地の活性化にアートがどのような役割を果たすのか」という課題 に対し、様々な立場から議論がなされた。

鈴木美恵子さんは「アートはすぐには役に立たないもの。心や精神に時間 をかけて作用していくもの。そこには感動や発見、驚きがある。中学生や高 校生の感性を磨いていくことができる」と訴えた。

徳永高志氏は、松山では道後アートが人気で、2014では草間弥生さんたち の泊まれるアート作品群『Hotel Horizontal (ホテル ホリゾンタル)』や中 谷芙二子さんの「霧の彫刻」などが人気だった。2015では「蜷川実花×道 後温泉 道後アート 2015」が開催され若い女性に好評だった。地域の資源と

第12回お城下大学の案内チラシ



アートをコラボレーションし、今までにはなかった「アートで賑わいを創りだす」ということに取り組んだことを紹介 された。

第 13 回 お城下大学 俳都松山の文化・観光のまちづくり

~地域資源としての愚陀仏庵の再評価~

開催日時:平成29年2月5日(日) 14:00~16:00

開催場所:坂の上の雲ミュージアム

基調講演:「フィールドミュージアムの中の愚陀仏庵」松原正毅(坂の上の雲ミュージアム館長)

パネルディスカッション:「地域資源としての愚陀仏庵の再評価」

コーディネーター:鈴木茂(松山大学教授)

パネリスト:日野二郎(株式会社まちづくり松山代表取締役会長)/松原正毅(坂の上の雲ミュージアム館長)/今村 晋介(坊っちゃん劇場支配人)

子規・漱石生誕 150 年を記念し二人が過ごした下宿宿・愚陀仏庵にスポットを当てて、様々な側面から再評価がなさ れた。

坊っちゃん劇場今村支配人から、「なかなかミュージカルには創りにくい題材だったが、視点を変えて何とかミュージ カルに仕立てた。喜びあり涙あり感動ありのミュージカルに仕立てられており、小中学生にもぜひ見ていただきたい」 と紹介された。

松原館長からは「フィールドミュージアムというすばらしい構想をたてた。長い年月がかかるだろうがぜひ創りあげ て欲しい」と力説された。







1 第13回お城下大学の案内チラシ

2・3 お城下大学の様子

まとめ

お城下松山と共催した「お城下大学」は松山の俳句文化のルーツや子規漱石が近代日本語の成立に果たした役割、アー トが街の活性化に果たす役割などについて議論され、「文化の街・松山」の魅力を来場者に十分に伝えることができたと 思う。今後も様々な子規漱石生誕 150 年記念イベントに取り組んでいきたい。

3-9 若手経営者の生業とまち再生研究会

若手経営者の起業(生業)の動向とそれによるまち再生 のあり方を検討するものであり、銀天街裏通りと三津浜を 対象事例地域にした研究である。研究組織はUDСMメン バーと愛媛大学社会共創学部教員からなる。

中心街の表通りにはチェーン店等の出店が増える一方 で、銀天街裏通りには、小さくともユニークな周辺から移 転してきた、或いは流入してきた若手経営者の店舗が多 い。こうした現象は、郊外地区に目を移したとき、古い港 町である三津浜地区でも類似した出店現象に出会う。三津 浜には数年前に横浜から進出してきた「ミツハマル」(松 山市の委託事業;三津浜地区賑わい創出事業 写真1)が 拠を構え、空き店舗や空き家の紹介を始めており、それが 大きな情報発信ともなっている。この2つの地区の店舗経 営者に対して、昨年夏にアンケート調査を実施するととも に、幾つかの特徴ある店舗にヒアリングを行った(写真2 革工房リテラのヒアリング)。

銀天街裏通りでは2000年以降の出店が7割、業種は4 割強が物販、飲食3割、サービスと続き、店舗業態は9割 が個人店である。開店に際して経営者自身が内装に直接関 わったのは5割強、友人等の参加も多い。現店舗と前店舗 が同様であるのは7割近くであり、裏通りを目指した出店 は8割に上る。

三津浜では2000年以降の出店は4割、業種は物販4割 強、飲食3割、サービスと続き、店舗業態はすべてが個人 店である。開店に際し経営者自身が内装に係わったのが6 割、家族や友人の支援も多い。現店舗と前店舗が同様なも のは3割弱で新規展開が多く、当初から三津浜を目指した 出店は7割弱である。店舗と自宅の距離は、職住一体が5 割弱、職住分離でも徒歩圏内が2割強である。

銀天街裏通りでの出店変動が大きく、業態は両者とも類 似している。出店に際しては、表通りより裏通り、中心市 街地より縁辺の三津浜といった具合に、地域選択が明快で ある。また店舗の改装に際しては自ら係わる経営者が多

く、まち・地域へのこだわりや DIY を通した地域連携指 向が見られる。特に三津浜では子育て世帯の流入が存在 し、その結果、家族経営や職住一体(及び近接)が数多く 見られ、生業と暮らしの両立指向が顕在化している。地価 が下がり家賃が安いため、職場と住居の両方を確保するこ とが比較的容易なこともある。こうした生業のあり方につ いては「ワークライフバランス起業」(川名和美 商工金 融 2015年11月) の指摘があり、加えて地域選択として の歴史的街並みである港町三津浜での起業との関係性の 解明も要請される。まち再生と関連づけたとき、路地裏や 都市縁辺部のこうした動向は、新しい「暮らし」と「生業」 のあり方に加え、「まちづくりの担い手づくり(育て)」を 先取りするものと位置づけられる。



ミツハマル



3-10 松山交通研究会

公共交通を主にして、歩いて暮らせるまちづくりを目指 した「都市界隈のなじみの形成プロセスの研究」を進めて いる。都心に集う人々、住む人々がどのようなプロセスで 何を手がかりにまちになじみ、慣れ親しんでいくのかを把 握し、なじみに影響を及ぼす因子を明らかにしていくもの である。本年度は、愛媛大学 1、2年生 216 名を対象に 松山の認知地図を描いてもらい、その内容から生活傾向を 把握した。認知地図から読み取れる定量的な要素として、 店舗や施設などの物理的な生活環境を表す中心生活傾向 性と非チェーン店や市街地距離感などの市街地の慣れ親 しみを表す中心市街地親和度を定義し、それらを多変量解 析を用いて分析した結果、以下の4つの群に分類するこ とができた。個人属性との関連性から各グループの特徴を 示す。

- ・積極的社会活動群:アルバイト、サークル活動を積極的 に行っており、中心市街地に行く頻度も高いが、市街地に 居場所が見つけられていないグループ
- ・積極的任意活動群:友人関係が豊富で中心市街地に行く 頻度も多く、非チェーン店舗を記述する傾向が強く、中心 市街地との距離感も近いグループ
- ・活動無関心群:サークル、部活の所属率が低く、大学近 辺の施設に記述が限定されており、安心できる場所がない と回答した割合が高い、孤立した日常生活を送っているグ ループ
- ・地図的認識限定群:居住歴が長く、通り名、地名、施設 などの地図的要素の記述が多い一方で、友人とよく行く場 所や安心できる場所には特徴が見られないグループ

各グループで活動、認識の多様性を示す指標を算出する と、積極的任意活動群が最も高く、活動無関心群が最も低 くなった。地域愛着についても同様の傾向が見られた。以 上のことから、友人関係と市街地のなじみの施設や要素 間には関連があり、友人関係が豊富かつ多様なほど、非 チェーン店舗が認知されており、多様な活動を市街地で 行っていることが明らかになった。今後は、空間的な特性 との関連性を把握するとともに、経年的な認知地図の変容 を追跡することにより、市街地のなじみのプロセスを把握 することが必要になってくる。

3-11 アーバンデザイン研究会

UDCM では、松山のアーバンデザインを考える場として、アーバンデザイン研究会を開催している。様々な分野の専 門家を講師に招き、一般市民、行政職員、民間事業者、学生が一緒になって、まちづくりについて学び、意見交換を行っ ている。平成28年度は全4回実施した。

第5回アーバンデザイン研究会「アフリカ都市文化から学ぶ」

開催日時:2016年6月29日(水)18:00-20:00

開催場所:もぶるテラス (UDCM)

ゲストスピーカー: 寺谷亮司氏(愛媛大学社会共創学部教授)/小野悠(愛媛大学防災情報研究センター助教)

参加者:26名(松山市職員、大学関係者など)

第5回アーバンデザイン研究会は「アフリカ都市文化から学ぶ」をテーマに 開催した。地理学を専門とする寺谷氏に「東・南部アフリカ都市の特質 - その 成立史・都市内部構造・住民構成を中心に -」という題目で基調講演を行ってい ただいた。続いて、都市計画を専門とする UDCM の小野ディレクターが「アフ リカにおけるインフォーマルな都市空間形成プロセス」について講演を行った。 会場からの質疑への応答や意見交換を通じて、多様な文化を受け入れるアフリ 力都市を題材に、コミュニティや共有、連帯といったアーバンデザインの根源 的なものについて考える貴重な機会となった。



第5回研究会の案内チラシ

第6回アーバンデザイン研究会「都市空間をつくり育てる」

開催日時:2016年8月7日(日)14:00-17:00

開催場所:もぶるテラス(UDCM)

ゲストスピーカー: 浅子佳英氏(建築家、インテリアデザイナー)/吉谷崇氏(設計領域)

ミニパネル:松山アーバンデザインスクール2期生

ディスカッション: 浅子氏/吉谷氏/アーバンデザインスクール2期生 参加者:35名(賑わい再生社会実験関係者、市役所職員、大学生など)

第6回アーバンデザイン研究会は「都市空間をつくり育てる」をテーマに開催した。まず、インテリアデザイナーの 浅子氏から現在の社会状況を反映した店舗デザインの動向についてお話をいただき、ライフスタイルのデザイン、新た な価値の創出といった都市をデザインする上で重要な要素についてお話しいただいた。吉谷氏には、松山で携わってい

る花園町通り空間改変事業や東京における公共空間の活用事例をご紹介いただき、街路空間を「街の庭」としていかに 使いこなしうるか、問題提起していただいた。また、都市空間の更新時期にあたる松山において UDCM が果たすべき役 割についてもご意見いただいた。

その後、ミニパネルでは、松山アーバンデザインスクール2期生の3グループ(「名もなき公園プロジェクト@柳井 町」、「路地裏映画館 on 正安寺通り」、「段ボールでつくるじぶんたちの待ち~オトナとコドモの夢中をひきだす~」)が、

それぞれ企画・準備を進めている まちづくりプロジェクトの発表を 行い、浅子・吉谷両氏からコメン トやアドバイスをいただいた。

最後に、アーバンデザインス クール生の質疑や意見に浅子氏と 吉谷氏が応える形でディスカッ ションを行い、いかに市民が街な かの都市空間を「つくり」「育て」 ることができるのか、いかにまち なかに賑わいを取り戻すことがで きるのか、議論した。



第6回研究会の案内チラシ



研究会の様子

第7回アーバンデザイン研究会「まちづくりを通じた『子育て支援』×『健康福祉』」

開催日時:2016年8月10日(日)17:00-19:00

開催場所:もぶるテラス (UDCM)

ゲストスピーカー: 畔地利枝氏(聖カタリナ大学人間健康福祉部教授)/丸山裕司氏(聖カタリナ大学人間健康福祉部教授)

参加者:15名(市役所職員など)

第7回アーバンデザイン研究会は「まちづくりを通じた『子育て支援』×『健 康福祉』」をテーマに開催した。畔地氏から地域における子育て支援、子どもの 課題への対処のあり方について、丸山氏から介護予防という観点からの健康づ くりについてお話しいただいた。少子高齢化社会の到来に向けて「子育て支援」 や「健康づくり」がまちづくりを考える上で不可欠となっている中、子どもた ちがすこやかに安心して暮らせる社会、高齢者が活動的に地域で暮らせる社会 にするためには、地域の活力を基盤に人々が支え合う仕組みを構築することが 不可欠であり、そのためには地域のキーパーソンの役割が重要になってくるだ ろうといった意見が挙がった。 第7回研究会の案内チラシ



まちづくりを通じた

第8回アーバンデザイン研究会「リノベーションまちづくり~ぼくが県庁を辞めて店長に なった理由~」

開催日時:2016年12月2日(金)14:00-16:30

開催場所:もぶるテラス (UDCM)

ゲストスピーカー: 武内淳氏(株式会社宿坊クリエイティブ)

参加者:39名(松山市職員、大学関係者、民間など)

第8回アーバンデザイン研究会は、「リノベーションまちづくり」をテーマに、 和歌山県庁を退職してまちづくり会社を設立した武内氏を講師にお招きして開催 した。武内氏は県庁時代に空き家対策に携わり、退職後は水辺に面した建物をリ ノベーションして「和歌山のお酒と肴」が楽しめる日本酒バーの店長をしながら、 和歌山のまちなかの活性化と水辺の再生を手がけている。

研究会では、武内氏に、「リノベーションまちづくり ~ぼくが県庁を辞めて店 長になった理由~」をテーマにお話しいただいた。人口減少・高齢化に加え、第 2次産業の高度化と生産拠点の海外化による質の高い雇用の喪失により、まちな かの空洞化が著しい和歌山市において展開されているリノベーション事業が、増 え続ける空き家を活用していかに都市経営課題を解決しうるか、お話いただいた。 会場からは質疑や意見が活発に出され、本テーマの関心の高さが伺えた。



第8回研究会の案内チラシ

















4 まちづくりの担い手育成:「学ぶ」

「これからのまちづくりの担い手を育てます」

まちづくりは楽しみをつくること。

このまちを舞台に生活をする人たちにもっとまちを好きになってもら えるように、自分が好きになれるように、想いをカタチにする方法を 学んでいきます。



4-1 アーバンデザインスクールの概要

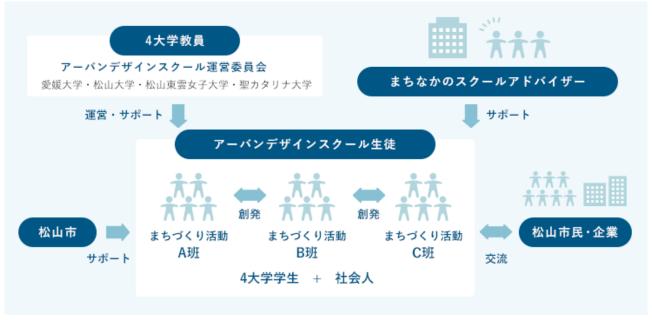
将来のまちづくりの担い手を育成するとともに、まちな かのファンを増やすことを目的として、平成26年11月 より、まちづくりを実践的に学ぶ市民参加型の学習プログ ラム "アーバンデザインスクール"の推進・展開を図って いる。

本スクールは、UDCM が母体となり、松山市都市再生 協議会のメンバーである松山市内の4大学(愛媛大学・ 松山大学・聖カタリナ大学・松山東雲女子大学)の教員が 運営委員会を組織し、活動を遂行している。コンセプトは、 「学生から一般市民(社会人)まで、まちへの思いを持っ た幅広い世代が集い、参加者自らが柔軟な発想と方法でま ちづくりを企画・実践する中で、まちづくりの進め方を学 んでいく市民参加型・体験型の学習プログラム」である。 参加者は、まちとの関わりや多様な人々との交流を深めつ つ、まちづくりの企画からワークショップ、市民講座の運 営を経て、まちづくり活動の実践に至るまでまちづくりに 関わる一連のプロセスを体験し、その中で自ら成長してい くと共に、まちの歴史や文化に根ざした松山市ならではの

魅力的なまちづくり活動に結実させていくことを目指し ている。

今年度からは、前年度の松山市でのアーバンデザインス クールに加え、国が定める連携中枢都市圏構想を受けて、 伊予市、東温市においてもアーバンデザインスクールを開 講した。他市においては、運営委員会に加え現地市職員も 運営に加わった。

松山市におけるアーバンデザインスクールでは、今年度 は29名(内8名は社会人)、伊予市では7名(内5名が 社会人、2名が高校生)、東温市では14名(内2名は社会人) の生徒が隔週で集まり、それぞれの地域のまちづくりの課 題や楽しみ方について各自が発見をし、それらから各自で テーマを導き、大学関係者や行政、地元関係者との連携の 下、まちづくり活動に取り組んだ。



アーバンデザインスクールの運営体制

4-2 松山アーバンデザインスクール

スクール生らは、まち歩きや運営委員の講師らによるレ クチャー、ワークショップ等に参加し、自分達が関心の ある地域と、取り組みたい「課題解決」「地域の魅力向上」 のテーマを発表し合い、学生と社会人の混合グループを形 成した。その後、各グループでまちづくりを進めるための 企画書を作成し、平成28年7月10日には市民・行政職員・ 大学関係者参加のもと中間発表会を開催し、企画内容の公 開プレゼンテーションを実施し、参加者から実現に向けた 助言を得た。当日は市民・行政関係者・大学関係者62名 の方にご出席いただいた。その後、各グループはまちづく りプロジェクトを実施していった (表1)。11月26日に は市民・行政職員・大学関係者参加のもと最終報告会を開 催し、最終的に実践に結実させた企画の内容、目的、プロ セスなどについて、プレゼンテーションを行った。各プレ ゼンテーション後には、出席者から各チームに対して自由 に質問や今後に向けてのアドバイスをしていただいた。市 民・行政関係者・大学関係者74名の方にご出席いただき、 最終報告会の後には、スクール生の修了式を行った。詳細 な授業スケジュールについては、表2の通りである。

表 1. まちづくりプロジェクト一覧

企画タイトル	チームの構成員	人数
路地裏映画館 in 柳井町商店街	愛媛大学工学部 4 回生、社会人	2名
椿のおもてなしプロジェクト	愛媛大学大学院理工学研究科2回生2名、愛媛大学工学部1回生、社会人4名	7名
名もなき公園@柳井町	愛媛大学大学院理工学研究科 1 回 生、愛媛大学工学部 4 回生 2 名、愛 媛大学理学部 4 回生、松山大学経営 学部 3 回生	5名
まつトラムラリー	愛媛大学工学部 2 回生	1名
みかん DE 交流会	愛媛大学教育学部 4 回生、松山大学 経営学部 4 回生 2 名、社会人 2 名	5名
Family's Story プロジェクト	愛媛大学大学院理工学研究科1回生、愛媛大学工学部4回生、松山大学経営学部3回生2名、社会人	5名
三津 (みつ) けた!私のまち の写真館プロジェクト	愛媛大学工学部 4 回生、松山大学経 営学部 4 回生 2 名、愛媛大学法文学 部 2 回生	4名



スクールの様子

表 2. 授業スケジュール

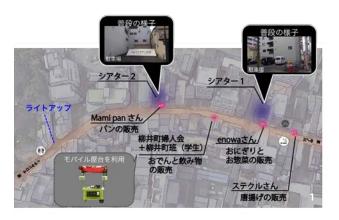
	1	で2. 投来人ググュール			
	日程	内容			
2015年					
第1回	12.4 (Fri.)	ガイダンス:事前アンケートの実施、自己紹介			
第2回	12.18 (Fri.)	まちづくりワークショップ 「即興演劇の視点からみたまちづくり」			
2016年					
第3回	1.9 (Sat.)	まち歩き@松山市中心部(魅力、課題発見)			
第4回	1.15 (Fri.)	まち歩きの結果の共有			
第5回	1.29 (Fri.)	まちづくりレクチャー「マーケティングの視点か らみたまちづくり」			
第6回	2.12 (Fri.)	まちづくりレクチャー「松山市関係各課から松山 市の現状と課題について」			
第7回	2.26 (Fri.)	事例調査① 他都市などでの先行事例に関する自主調査			
第8回	3.11 (Fri.)	事例調查②			
第9回	3.25 (Fri.)	事例調査③			
第10回	4.8 (Fri.)	グループ決めワークショップ①			
第11回	4.22 (Fri.)	グループ決めワークショップ②			
第12回	5.13 (Fri.)	グループ決めワークショップ③			
第13回	5.27 (Fri.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案①			
第14回	6.10 (Fri.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案②			
第 15 回	6.24 (Fri.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案③			
第16回	7.8 (Fri.)	中間発表会準備			
	7.10 (Sun.)	中間発表会@坂の上の雲ミュージアム			
第 17 回	7.22 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備①			
第 18 回	8.19 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備②			
第 19 回	9.2 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備③			
第 20 回	9.16 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備④			
	10~12月	まちづくりプロジェクト実践			
第21回	10.28 (Fri.)	まちづくりプロジェクトプロジェクト実践進捗共 有			
第 22 回	11.18 (Fri.)	最終報告会準備			
	11.26 (Sat.)	最終発表会@坂の上の雲ミュージアム			

■ 路地裏映画館 in 柳井町商店街

本企画は、低未利用地を活用して地域活性を目指したプ ロジェクトである。近年、松山市の中心商店街周辺には駐 車場や空き地などの低未利用地が増加している。また、商 店街には多くの人通りがあるものの、路地裏は人の往来が 少ないという現状もある。一方、路地裏にはこだわりのあ る店舗が散見され、ポテンシャルのある空間であることか ら、路地裏空間の低未利用地を活用し、周辺の店舗とも協 働し、路地裏空間を映画館に見立てるイベントを企画し た。11月3日に開催され、約100名の来場者はおでんや ホットミルク、かぼちゃスープなどの出展したお店の料理 を堪能しながら、上映された4本の映画を楽しんでいる 様子であった。やや秋も深まった時期の開催であったた め、終了時間にむかうにつれ参加者の数は減少したが、も

う少し暖かい時期にまたぜひ開催してほしいと企画に対 しては肯定的な声をかなりいただいた。

1 企画概要 2 イベント当日の様子





▮ 椿のおもてなしプロジェクト

本企画は「椿を松山・道後の新たなブランドにする」こ とをコンセプトに、椿を道後の新たな観光の要素とし、落 ち着いたお洒落なイメージを作ることを目指したもので あり、1期生時からの継続プロジェクトである。椿は松山 市の花に制定されており、椿の香りに着目したまちづくり 展開は全国的にもあまり例をみないことから、香りのブラ ンド化を目指した。今期は、椿の香りを用いたバスソルト やリードディフューザーなどの商品開発を行い、銀天街土 曜夜市や道後温泉夏まつり 2016 など数々のイベントにて 商品販売を行った。商業展開を図るための事業計画はビジ ネスプランコンテストで最優秀賞を受賞し、現在は「木春」 というオリジナルブランドを立ち上げ、「椿の道後」ブラ ンドの商業展開とオフィシャルブランド化を進め、「椿の

香るまち松山・道後」の実現にむけて活動を続けている。

1 木春ブランドロゴマーク 2 銀天街土曜夜市の出店





▲ 名もなき公園@柳井町

本企画は実践を通して地域に内在する交流のつながり の強化や、新たなつながりの構築を目指したプロジェクト である。対象地域を柳井町商店街とし、一過性が懸念され るイベントではなく、継続性のあるプロジェクトになるよ う、まずはまちあるきを行い、地域住民の方に柳井町商店 街の歴史や現在の様子を伺いながら、関係性を築いていっ た。柳井町商店街の一画にある公園を整備し、地域住民の 交流拠点にすることを目指したが、整備をする中で地域の お祭りなどの行事に誘われるようになり、更に地域住民と の関係性が築かれた。その折に、スクールの別グループで ある「路地裏映画館 in 柳井町商店街」チームが場所を探 しており、地域との関係性ができている柳井町で実施する 運びとなった。当日の出展ブースや地域との折衝は本企画

メンバーが担当し、p.38 で述べたようにイベントは盛況 となった。以後も足しげく柳井町に通い、更に地域住民と の関係性を築いている。

地域の祭りに参加 2 柳井町商店街





■ まつトラムラリー

本企画は、松山市の公共交通の利用促進をねらったプロ ジェクトである。公共交通の利用低下の一要因として、地 域住民が路面電車の乗り方等の利用方法を知らない方が いるからではないかと仮定した。加えて、子供達の外遊び 機会が減少していることから、楽しみながら松山のまち、 公共交通等に知ってもらうイベントを企画した。路面電車 を使い、各駅の近くにクイズを用意し、参加者にスタンプ ラリー形式でめぐってもらうという内容で、地域のボラン ティアガイドの方や UDCM のシニアディレクターなどと 松山の歴史などをもとにクイズを作成した。10月16日 に開催し、当日は31名の参加があった。今回は歴史をテー マにクイズを作成したが、今後は他ジャンルと融合してい くなど更なる展開が見込まれる。





▮ ジモティ Life 松山

企画案は、転勤や進学を機に松山に移住してきた方のコ ミュニティづくりを目指したプロジェクトである。プロ ジェクトメンバーの過半数が県外出身であったことから、 移住促進に関する問題意識をもち、今回のテーマに取り組 んだ。事前調査では、松山市シティプロモーション課や移 住コンシェルジュの方から、現状や課題、現在の取り組み について伺い、移住者が口コミ情報を得られるような顔の 見えるコミュニティ作りの場を提供するイベントを開催 する運びとなった。対象を愛媛への移住者が多い広島県出 身の方に絞り、「広島県民会~みかん de 交流会~」と題 しイベントを実施し、当日は6名の方に参加いただいた。 参加者の方からは次回の開催予定や、このようなイベント を求めていたという声をいただき、今後の展開についても

展望が広がった。







▮ Family's Story プロジェクト

本企画は、親子の地域での思い出の機会の提供と記録を 目的としたプロジェクトである。お祭りや家族旅行など印 象に残る機会での記録は多いものの、日常的な記録はあま り多くないことや子どもと遊ぶ時間を両親にとっても楽 しい時間にできないかという問題意識のもと、「親子でつ くってみよう!!ストップモーションムービー」というイ ベントを実施した。ムービーのシナリオから衣装、演技な ど親子で考えてもらい、プロジェクトメンバーが補助、撮 影等をおこなった。当日は2家族が参加し、撮影した映像 はイベント時の写真とともに後日各家庭に送付した。参加 した子どもたちは終始笑顔で参加してくれ、親の方からは 将来子どもが大きくなったときに一緒にこの映像を見る のが楽しみだと言っていただけた。







三津(みつ)けた!私のまちの写真館プ ロジェクト

本企画は、歴史的街並みと魅力的な風景を残す三津を対 象に、三津の過去、現在を未来につなげることを目指した プロジェクトである。「かつて」の三津の写真を地域の方々 からお借りし、「いま」の三津の写真を地域の方々と一緒 に撮影し、「かつて」と「いま」の写真展を三津の歴史的 古民家で開催した。写真展は5日間開催され、約100名 の来場者があった。写真展の会場内で過去の三津の写真を もとに話しこむ地域住民の方々が多く、開催期間に何度も 足を運んでいただいた参加者もいた。最終報告会でのプレ ゼンテーションの際に、看護士の方から認知療法的にも非 常に良いプロジェクトであるという評価をいただき、今後 も本プロジェクトを継続できるよう試行錯誤している。

1 写真展 **2** 撮影ワークショップ





これらスクールでの活動はラジオ番組「まちラヂ」を活 用して情報発信した。本ラジオ番組は、UDCM と FM 愛 媛が連携して、毎週水曜 11:40 ~ 11:55 に放送している ものである。この番組の中で、スクール生による企画案の 紹介や、予定しているイベントの案内などを発信した。こ のような情報発信は、スクール生のモチベーションの維持 あるいは向上にも繋がったと考えられる。

本取組みは、座学による市民講座などとは異なり、地域 と連携しつつ活動を展開し、実際に自分達でもまちづくり に参加するという体験を通じた学びに意義があると考え る。また、これらの取組みは、UDCMの活動を展開して いく上でも、地域連携を促進するという点で重要な役割を 担うものである。

なお、5月19日よりアーバンデザインスクール3期生 の活動が開始し、1期生、2期生の活動成果を整理・分析 し、今後の効果的なプログラムのあり方について考察を深 めていきたい。



中間発表会



最終報告会

4-3 伊予市×松山アーバンデザインスクール

スクール生らは、まち歩きや運営委員の講師らによるレ クチャー、ワークショップ等に参加し、自分達が関心のあ る地域と、取り組みたい課題解決あるいは地域の魅力向上 のテーマを発表し合い、高校生と社会人で構成される受講 生7名でひとつのプロジェクトに取り組むことになった (表1)。その後、まちづくりを進めるための企画書を作成 し、行政や地元関係者との話し合いを通し、プロジェクト を結実させた。5月11日にプロジェクトの振り返りとし て最終授業を行い、約7ヶ月のスクール活動を修了した。 詳細な授業スケジュールについては、表2の通りである。

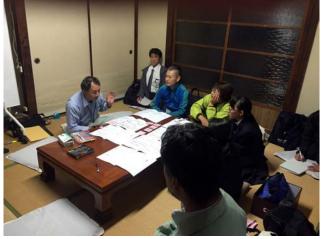


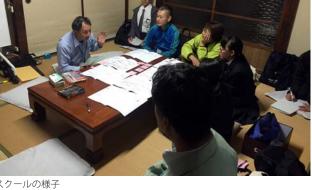
表1. まちづくりプロジェクト一覧

企画タイトル	チームの構成員	人数
郡中まちクエスト	高校生2名、社会人5名	7名

表2. 授業スケジュール

	日程	内容			
2016年					
第1回	9.8 (Thu.)	ガイダンス:事前アンケートの実施、自己紹介			
第2回	9.23 (Fri.)	まちづくりワークショップ:写真を用いたまちの 情報(魅力、課題)共有			
第3回	10.7 (Fri.)	まちづくりレクチャー「市役所、まちづくり郡中 から伊予市の現状について」			
第4回	10.19 (Wed.)	事例調査:全国の先進事例の調査・発表			
第5回	11.2 (Wed.)	テーマ決めワークショップ			
第6回	11.30 (Wed.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案①			
第7回	12.14 (Wed.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案②			
2017年					
第8回	1.11 (Wed.)	まちづくりプロジェクト実践準備①			
第9回	1.25 (Wed.)	まちづくりプロジェクト実践準備②			
第 10 回	2.8 (Wed.)	まちづくりプロジェクト実践準備③			
第11回	2.17 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備④			
第12回	3.3 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備⑤			
第13回	3.23 (Thu.)	まちづくりプロジェクト実践準備⑥			
	3.26 (Sun.)	「郡中まちクエスト」実施			
第 14 回	5.11 (Thu.)	活動振り返り			







スクールの様子

▮ 郡中まちクエスト

本企画は、伊予市商店街の近年の衰退、特に若者の商店 街離れという課題に対する一助となることを目指したプ ロジェクトである。商店街の魅力や、商店街の利用方法な どを若者に向けて楽しく知ってもらうために、スマート フォン向けアプリである「まちクエスト」を活用し、伊予 市商店街においてクイズラリーイベントを企画した。開催 日を、五色姫復活祭という伊予市において伝統的な祭と同 日開催とし、集客数の増加をねらった。そのため企画立案 の段階で、五色姫復活祭実行委員の方々と打ち合わせを行 い、企画を練り上げていった。クイズの内容は商店街の歴 史や各店舗の魅力などが分かるものを作成した。当日は約 70名の方に参加いただき、30代以下の参加者が85%で あった。また、クイズラリーをクリアした参加者には、景 品として伊予市商店街で使用できる商品券を贈呈し、今後 の利用をねらった。参加者からは、「学びながら楽しく歩 く運動が親子で仲良く出来て、いい機会だった。」「分から ない問題は街の人に聞いたり交流もできました。」といっ た感想をいただき、好評のうちにイベントを終えた。

1 イベント当日 2・3 まちクエストの遊び方







4-4 東温市×松山アーバンデザインスクール

スクール生らは、まち歩きや運営委員の講師らによるレ クチャー、ワークショップ等に参加し、自分達が関心のあ る地域と、取り組みたい課題解決あるいは地域の魅力向上 のテーマを発表し合い、学生と社会人の混合グループを形 成した。その後、各グループでまちづくりを進めるための 企画書や、行政や地元関係者との話し合いを通し、プロ ジェクトを結実させた (表1)。詳細な授業スケジュール については、表2の通りである。

表 1. まちづくりプロジェクト一覧

企画タイトル	チームの構成員	人数
空き家リノベーション	松山大学経営学部4回生、松山大学経営学部3回生、愛媛大学社会共創学部1回生2名	1 1
地域食材で創作料理プロジェクト	愛媛大学社会共創学部 1 回生	1名
toon めぐりプロジェクト	愛媛大学法文学部 4 回生、松山 大学経営学部 3 回生、社会人	3名
ひなまつりプロジェクト	愛媛大学法文学部 3 回生	1名
防災まちづくりプロジェクト	愛媛大学教育学部3回生3名、 松山大学経営学部1名、社会人	5名

表2. 授業スケジュール

	日程	内容
2016年		
第1回	8.24 (Wed.)	ガイダンス:事前アンケートの実施、自己紹介
第2回	9.10 (Sat.)	まち歩き@東温市中心部(魅力、課題発見)
第3回	9.21 (Wed.)	まちづくりレクチャー「市役所から東温市の現状 について」
第4回	9.28 (Wed.)	まちづくりレクチャー「マーケティングの視点か らみたまちづくり」
第5回	10.21 (Fri.)	事例調査
第6回	11.11 (Fri.)	テーマ決めワークショップ
第7回	11.25 (Fri.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案①
第8回	12.9 (Fri.)	まちづくりプロジェクト企画書・立案②
2017年		
第9回	1.20 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備①
第 10 回	2.3 (Fri.)	まちづくりプロジェクト実践準備②
	3~5 月	まちづくりプロジェクト実施
第11回	5.25 (Thu.)	活動報告



スクールの募集チラシ



まち歩きの様子



スクールの様子

▮ 空き家リノベーション

本企画は、東温市内にある空き家を改修し、地域のコ ミュニティスペース作りを目指したプロジェクトである。 東温市滑川地区にある1軒の空き家を、行政を通じて所有 者に譲渡していただき、当該地区の区長や東温市の地域お こし協力隊、行政と協働し空き家の整理、改修を進めてい る。今後も多様な主体と協働し改修を進め、リノベーショ ンした空き家の利活用についても更に詳細に検討してい く。

1 滑川地区の空き家 2 空き家改修の様子





Ⅰ 地域食材で創作料理プロジェクト

本企画は、東温市の特色ある地域食材を活用し、新たな 創作料理を生み出すことを通して東温市の魅力発信を目 指したプロジェクトである。東温市ではいちごが特産であ ることと、イタリアンを扱った店舗が多いという特徴があ る。そこで、東温市の魅力発信のために「食」というテー マに絞り、いちご収穫から、いちごを用いたイタリア料理 創作までを行うイベントを開催した。参加者数を限定 10 名とし、当日は参加者のお子様も含めた 12 名の参加者に 食を通して東温を堪能していただいた。

1 いちごの収穫 2 いちごを使ったイタリア料理の試食





I Toon めぐりプロジェクト

本企画は、東温市内にある電車や川のせせらぎなどの音 を採集し、その音を落とし込んだマップを作成することを 通して東温市の魅力発信を目指したプロジェクトである。 受講生は、公園内で遊ぶ子どもの声や落ち葉をふむ音、そ して商店街の店舗内の作業音や、来客者とのやりとりなど を録音させていただき、編集したうえで動画サイトにアッ プロードした。また、その音が聴けるポイントを記した地 図を作成し、商店街の店舗の紹介コーナーも作成した。

1・2・3 東温の音・風景





▮ ひなまつりプロジェクト

本企画は、東温地域固有のひなまつり文化である野田天 神に関する情報発信を目指したプロジェクトである。一般 的なひなまつり文化とともに野田天神に関する内容を、東 温市ぷらっと home にてパネルや実物とともに展示会を実 施した。期間は、平成29年3月1日から3月30日まで の約1ヶ月間展示を行い、ぷらっと home への来客者に 楽しんでいただいた。



企画発表

▮ 防災まちづくりプロジェクト

本企画は、防災教育をツールとして地域内のコミュニ ティ活性の一助となることを目指したプロジェクトであ る。災害時にどういった影響があるのか、どう行動すれば よいかを地域内で考えてもらうことで、災害に対する危機 感をもってもらい地域内での共助が行われやすくする一 助となることを目指したが、実現には至らなかった。



打ち合わせの様子





















5 賑わいの創出:「交わる」

「子どもからお年寄りまで、みんなが集う広場」

買い物途中に立ち寄って休憩したり、子どもと遊んだり。 子どもからお年寄りまで気軽にくつろぎ交流できる場が欲しいという 声に応えて、大街道・銀天街という2つの商店街のちょうど真ん中あ たりに「みんなのひろば」と「もぶるテラス」をつくりました。



5-1 みんなのひろば・もぶるテラスの運営

1. はじめに

松山市中心市街地賑わい再生社会実験として開設され た「みんなのひろば」と多目的スペース「もぶるテラス」。 2014年11月の社会実験開始から約2年半を迎えた。 2016 年度から、松山アーバンデザインセンター (UDCM) が受託し、管理・運営を行っている。

2. 利用者の推移

社会実験期間中、みんなのひろばの延べ利用者数は 10 万人を突破して約119.810人(27ヶ月間。推計値)、も ぶるテラスの延べ利用者数も5万人を超えて約50,560人

みんなのひろばでは、平日、休日ともに、家族連れや 友人同士で時間を過ごす、一人で休憩、POP UP LIBRARY を覗くなど、その人それぞれの形で利用されている。午前 中は保育園の子どもたちの遊び場に、午後や夕方はベンチ に座って語ったり、近隣店舗で購入したものを食べるなど の姿がみられている。

もぶるテラスは、平日、休日ともに、休憩利用が最も多 いが、休日はトイレのみの利用者の割合が増える。平日の 午後は、近隣の会社員がお弁当を持ち込み、休憩する場と しても定着している。

ひろばの日常は1日の平均が数百名程度で、過密にな

ることはないが、土曜夜市の開催時は、1000人近くにな ることもある。来街者が増加する際の受け皿の一つとなっ ている。

3. 多種多様なプログラム

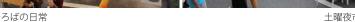
今年度は、子育て世代をターゲットとし、様々なプログ ラムを実施した。自主事業として、28企画、全95回の主催・ 共催イベントを開催。「もぶる(混ぜる)」の名の通り、さ まざまな交流を生み出した。

触れ合いやものづくりなどの体験型のプログラムが多 く、砥部動物園の協力による「みんなのひろばで動物とふ れあおう!」、レゴブロックを使った「レゴ®であそんで、 まちづくり♪」は多くの親子連れで賑わった。土曜夜市に あわせて実施した、「夏だ! 海だ! あ、噴水だ!」や 「しゃぼん玉であそぼう」などは、ひろばに設置した噴水 を有効活用したもので、子どもたちが遊ぶ微笑ましい光景 に、道行く人の目に留まり、新たな利用につながった。

また、まちなかを知り、思い出をつくるプログラム「辞 書といっしょに、おやこでまちなか探検!」は、子どもた ちとまちなかを歩いて、目にした気になるものを辞書で調 べるというもので、辞書の面白さを学ぶとともに、親も子 ども目線から見たまちに面白さを感じてもらえた。

11月からは、子育て世代のみならず、多様な人が子育







てを考える場をつくるために、NPO 法人ワークライフ・ コラボとの共催で、連続講座「週末はまちなかで子育てを まなぶ」(全6回)を開催。子育て世代はもちろんのこと、 大学生や子育てを終えた人、子どもと接する仕事に携わる 人など、様々な背景や世代の人がともに子どもに関わるこ とについて学んだ後、まちなかで実施してほしいプログラ ム案を出し合った。託児も行い、学生の保育体験にもつな がった。

まちなかの交流や休憩スペースとなっている「てくる ん」「きらりん」等と連携した企画も実施。「まちなかてく てくハロウィン」「てくてくクリスマス」では、スタンプ ラリー形式としたことで回遊性を持たせた上、各地点で ワークショップ等を開催したことで、まちなかにおける滞 在時間の向上にもつながったと考えられる。このプログ ラムをきっかけとして、UDCM に初めて訪れた人も多く、 周知につながった。

今年度から、販売等の行為を含むイベントに関しても、 社会実験運営委員会に諮り、許可が妥当であれば、実施可 能となった。学生スタッフによる屋台や、NPOによる植 物に親しむイベント、子ども用品のフリーマーケット、ク リスマスイベントなどを実施。来場者を増やし、これまで のプログラムとは異なる層に参加してもらえたものもあ るなど、まちなかひろばの活用方法の幅が広がった。さら に3月には、お城下マルシェがスタート。主催は、お城 下マルシェ実行委員会で、商店街関係者やまちづくり会 社、民間企業、そして UDCM で構成されている。ロゴデ ザインは松山ビジネスカレッジの学生によるもので、大学 生スタッフが企画や運営を担い、公民学で連携しながら、 手づくりで進められている。ひろばで実験的に始め、運営 経験を積み、まちなかでさらに展開できるよう、今後の発 展が期待される。

これら自主企画の他にも、アーバンデザインスクールや











- **1** みんなのひろばで動物とふれあおう! **2** 夏だ! 海だ! あ、噴水だ! **3** 週末はまちなかで子育てをまなぶ
- 4 まちなかてくてくハロウィン 5 お城下マルシェ

編集ワークショップ等の UDCM 自体の自主事業、NPO や 大学、民間による独自のプログラムも実施され、多種多様 なプログラムが行われる中で、商店街の店舗による利用も 出始めている。

4. 学生の挑戦と学び

ひろばやテラスの日常の運営や調査業務は、平日日中に 勤務する常勤スタッフと、学生スタッフによって支えられ ている。ゴミや駐輪違反などを放置すると、瞬く間に広 がってしまうが、掃除や注意、看板の設置等、日々の努力 で質を落とさず維持管理されている。また、窓口として、 利用者とコミュニケーションをとり、利用者からは、「学 生がいて、アットホームな感じが良い」という声も聞かれ ている。

そのような日常業務に加えて、学生による自主企画もあ り、企画や運営を学生が自主的に担い、実践しながら経験 を積み、学ぶ機会ともなっている。その中の一つ「ひろば のふぁーむ」は、登録メンバーで、野菜や米、綿を育て、

収穫をみんなで楽しむというもの。これを機に、子どもた ちや親との交流が深まり、利用のリピーターにもつながっ た。まちなかであっても様々な生きものに触れることがで きたことにも意味があり、野菜を育てることの難しさも 知った。

正月明けの「新年夢書初め」では、「夢」をテーマに、 オリジナルソングが披露され、学生スタッフが書道パ フォーマンスを行った。学生の若々しい熱い想いをぶつけ る表現の場として、ひろば活用された事例となった。今後、 このような活動が増えることで、まちの賑わいに寄与でき る可能性を感じるプログラムとなった。

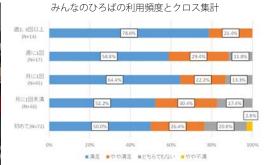
5. 取り組みの効果

効果検証のために、利用者カウント調査、利用者アン ケート調査、通行量調査、街頭アンケート調査、店舗アン ケート調査等を実施した。利用者アンケートからは、外出 頻度や滞在時間、まちなか居住の魅力向上などが伺え、一 定の影響を及ぼしていると推測された。また、利用者アン



ひろばのふぁーむ 2 新年夢書初め







ケートの結果からは、利用した満足度が高い結果が得られ た。イベント参加者アンケートでは、イベント目的で来街 した割合が高く、前後にまちなかで食事や買い物をしてい ることが分かった。

6. 今後の課題

前述の効果が認められつつあるものの、一方で課題も浮 き彫りとなっている。

①認知・周知の不足

来街者アンケートの結果から、他のまちなか施設と比 べ、認知度が低いことから、現状では周知が十分に進んで いるとは言い難い。更なる手法や媒体で PR をする他、新 たな層を呼び込む企画も必要と考えられる。

②自主事業以外の利用促進

開催されたイベントの中で、UDCM 主催が多いことか ら、継続性を考えると、UDCM 以外の主体による施設利 用の増加が必要と考えられる。近隣店舗や NPO、大学に 働きかけるとともに、フリーマーケットやマルシェ等の新 たな動きを支援していくことが必要である。

③ターゲットの拡充

今年度は子育て世代をターゲットに取り組んだが、シニ ア世代や若年層向けのプログラムに対する要望も寄せら れている。ターゲットを複数化し、多世代の交流が生まれ る仕組みづくりの検討も実施していきたい。

④地域連携の強化

商店街に近接しているにも関わらず、その連携が弱く、 興味関心を持たれているとはあまり言えない。商店街との 連携企画や営業活動にも取り組む必要性がある。また、ま ちなか施設との連携はこれまで以上に深めつつ、まち全体 を楽しむことができる仕掛けづくりを検討する等、さらな る回遊性の向上を考えたい。

⑤自立した運営に向けて

ひろばとテラスの管理・運営は、松山市の委託費で賄わ れているが、それは永続的なものではないことから、持続 可能な仕組みづくりを検討する必要がある。販売等の行為 についても社会実験が可能となったことは大きな前進で あり、その結果も考慮しつつ、有料化を見据えた調査を引 き続き実施する。さらに、市民参画の仕組みづくりも検討 していかなければならない。

⑥評価方法の開発

ひろばやテラスの効果を測る上で、来場者数や通行量調 査、アンケート調査では見えてこないものもある。例えば、 人と人が交わることによって生まれる新たなアクティビ ティの誕生やコミュニティの醸成などが考えられるが、そ れらを効果的に測る指標は乏しいのが現状である。どのよ うに、価値を見い出し評価していくのか、それは、多くの パブリックスペースが抱える課題でもある。今後のまちな かのパブリックスペースの設置を考える上でも、評価手法 の開発が求められている。

7. 終わりに

2016年6月に、公共空間の「質」研究部会(一般社団 法人国土政策研究会(国土交通省所管)主催)による第2 回まちなか広場賞において、全国初の大賞を受賞した。地 域の人々との協働によって段階的に整備を実施したこと や、公民学連携による運営、ひろばとテラスの多様な活用 方法が評価された。

2017年度における社会実験の延長が決定されたが、課 題も多い。松山のまちなかのプラットフォームとして、ど れだけ市民に必要とされ、根付くことができるか、更なる 挑戦を続けたい。











A CHANG









6 情報発信:「知る」

「松山のまちづくりの情報発信はここから」

まちの今を皆さんにお知らせすることは大切な役割のひとつ。 UDCM がいま行っている活動やまちの動きを発信しています。



6-1 まちなかマガジン「もぶる」

公・民・学が連携・協働して新しいまちづくりを推進す るための拠点として松山アーバンデザインセンターが設 置され、「みんなの広場」や「もぶるテラス」を活用した 活発な事業が展開されており、まちなかの賑わいづくりや 人材育成などに寄与している。

こうした取り組みを情報発信していくツールとして、F M愛媛の協力を得てアーバンデザインセンター広報番組 「まち@ラジ」を放送してきたが、更なるアーバンデザイ ンセンターの情報発信として、市民目線の街なか情報も加 えたまちなかマガジン『もぶる』を作製することとした。

作り手も市民参加を意識し「編集ワークショップ」を開 催してその中から編集スタッフを募集するという手法を とった。

幸いにもワークショップには20人を超える一般市民の 応募があり、5月10日(火)~9月20日(火)まで10 回のワークショップを開催した。

企画、構成、取材、撮影、執筆、校正や扱う情報の管理、 危機対策も含め、基本知識を学んだ。

発行するまちなかマガジン『もぶる』は、発行部数 2,000

部/回、ページ数は 16 ページ A 5 サイズ、カラー刷り とした。

5月から9月をワークショップ期間として紙面づくりの 基礎や文章の書き方、写真の撮り方・貼り付け方、キャッ チコピーの考え方を学び、10月からは紙面づくりの実践 として、まちなかマガジン『もぶる』の創刊号、2号、3 号を発刊した。

また、「まち@ラジ」とも連動し、松山アーバンデザイ ンセンターの事業を発信してきた。

紙面づくりを実践していく中で、15人のメンバーが『も ぶる』の発刊を継続していくこととなり、もぶる事業部を 立ち上げた。まさに市民による市民のためのまちなかマガ ジンの発足である。自分たちの書いた記事が紙面となる喜 びが、次のまちづくりへの広がりにも結びついている。今 後も新たなメンバーを補充しながら松山アーバンデザイ ンセンターの情報発信や新たな活動の提起を担っていく ものと期待している。



- 編集 WS 募集チラシ
- 2・3 デザインの基礎的知識 WS(6月14日)
- 4・5 記事構成案の発表(6月28日)









【参加者から出た書きたい記事一覧】

- ・松山でやっているイベント
- ・松山(愛媛?)の有名人紹介!
- ・松山のおいしいグルメ(カフェなど)
- ・まつやま新発見(ここにしかない風景、全国的に珍しいもの・こと)
- ・Uターンカルチャーショック
- ・松山在住 47 都道府県出身者 47 人を探せ!
 - →ゆくゆくは世界約 200 カ国
- ・地域(地元)の活性化に取り組んでいる人、尽力している人をクロー ズアップする
- ・居場所を提供(子ども食堂のように集まって安心できる場所を紹介)
- ・観光客LOVE(どこ見たか、何を買ったか。あなたの知らない愛媛を 再発見)
- まちリレー!! (町名の由来、おすすめ)
- ・ギャラリー、美術館特集
- ・移住してきた方にインタビュー

- 幼稚園
- ・まちの歴史、成り立ち
- まちの名人
- まちの気になるスポット
- ・まちなかランコース MAP(○○~△△は 5km とか、立ち寄り補給スポッ トとか)
- ・日本の伝統文化を松山で体験できる場所・機会の紹介
- ・地元の人が知らない松山の魅力(道後商店街など)
- ・この春松山にできたお店の紹介
- ・小さなことから大きなことまで各地のイベント情報
- ・食べ歩きできる店の特集
- ・街中にある目安箱を取り上げる
- ・松山版エッジな人々
- ・松山市内 (その近郊) マルシェ特集
- ・空き家、リノベーション、ビフォーアフター

【創刊号構成案】

ページ数	内容
表 1	表紙
表 2	エッセー「新人女性会社員のひとり言
P 1	人物紹介「愛媛ビト生態図鑑」 FM愛媛パーソナリティのヒカルさん
P 2-5	「まちなかひとり旅」 道後温泉の意外な観光スポットを松山市消防局のマスコット キャラクターの「はっぴーカバー君」をさがす体験レポート
P 6-7	「オ昼ハ何ヲ食ベルノダ 〜オトナの社食と未来のオトナの学 食」 市内企業等の社食と大学構内の学食を比較する体験レポート
P 8	イベント情報
P 9	バック・トゥ・ザ 坂の上の雲ミュージアム
P 10-11	松山アーバンデザインセンターの活動紹介
P 12	編集後記
表 3	FM愛媛今昔物語

【第2号構成案】

	E214 = 3 1137242142
ページ数	内容
表 1	表紙
表 2	エッセー「新人女性会社員のひとり言
P 1-3	「い〜ばしょ」 (横河原ぷらっとHOME/東温市) まちなかのコミュニティ サロンを紹介する
P 4	「花を召しませ」 予算 2,000 円で花束のアレンジを比較
P 5	「まちなかアート」 市内中心部の画廊紹介
P 6-7	「空き家リノベーション」 空き家活用のビフォー・アフター
P 8	「高校生実態調査」 高校生はスマホで何を見ているのか
P 9	バック・トゥ・ザ 坂の上の雲ミュージアム
P 10-11	松山アーバンデザインセンターの活動紹介
P 12	編集後記/奥付



まちなかマガジン【もぶる】(左から創刊号、2号、3号)

6-2 ラジオ番組「まち@ラヂ」

UDCM は 2015 年 4 月から、FM 愛媛「えひめまるごと 15分」という、愛媛県内の市町を様々な角度から紹介す るラジオ情報番組において、水曜枠の「まち@ラヂ」(毎 週水曜 11:40~11:55 放送) の運営を担当している。番組 では、UDCMの取り組みを紹介する他、まちづくりの担 い手へのインタビューやイベント情報を紹介している。 2016年6月からは、毎月1回、松山市長にも出演いただ いている。市長が市民と直接対話するタウンミーティング の参加者をゲストにお招きして、市長とともに各地域にお けるまちづくりの取り組みについてお話を伺っている。

毎週水曜の番組放送後には、音源データを動画編集し て Youtube にアップし、FM 愛媛放送範囲外の方々にも広 く聞いてもらえるよう工夫している。市長出演回について は、松山市の公式動画チャンネルにアップされる他、松山 市役所や社会福祉協議会などで日常的に流していただい ている。

「まち@ラヂ」の運営には市民が参加している。2015 年と 2016 年に FM 愛媛と UDCM が主催して開催した 「声 優ワークショップ」に参加した市民5名が、UDCMアナ ウンス部として、番組の企画から取材、収録に携わってい る。市民が参加することで、放送内容の幅が広がり、ま た、番組の運営を通じて UDCM のネットワークが広がっ ている。今後は、UDCM編集部が制作・発刊する「まち なかマガジン【もぶる】」とも連携して一体的に情報発信 することで、UDCM の存在を市民に知ってもらうととも に、松山におけるまちづくりを盛り上げていきたいと考え ている。









1 アナウンス部企画会議 2 収録の様子 3 松山市長インタビュー 4 Youtube 公式チャンネル

表 平成28年度の放送内容一覧

放送回	放送日	放送内容		
第 52 回	2016.4.6	番組 MC の紹介		
第 53 回	2016.4.13	松山アーバンデザインセンターの新スタッフの 紹介 Part1		
第 54 回	2016.4.20	松山アーバンデザインセンターの新スタッフの 紹介 Part2		
第 55 回	2016.4.27	松山アーバンデザインセンターの新スタッフの 紹介 Part3		
第 56 回	2016.5.4	松山アーバンデザインセンターの新スタッフの 紹介 Part4		
第 57 回	2016.5.11	みんなのひろばの「ミニかかし企画」		
第 58 回	2016.5.18	ひろばのふぁーむプロジェクト		
第 59 回	2016.5.25	レゴであそんでまちづくり♪		
第 60 回	2016.6.1	松山アーバンデザインセンターの新スタッフの 紹介		
第61回	2016.6.8	アーバンデザインスクールの取り組み		
第 62 回	2016.6.15	土曜夜市の企画紹介		
第 63 回	2016.6.22	もぶるテラスの日常		
第 64 回	2016.6.29	野志市長インタビュー Part 1		
第 65 回	2016.7.6	野志市長インタビュー Part 2		
第 66 回	2016.7.13	アフリカ都市を語る Part1		
第 67 回	2016.7.20	アフリカ都市を語る Part2		
第 68 回	2016.7.27	まちづくりに携わる研究者の紹介 Part1		
第 69 回	2016.8.3	野志市長インタビュー Part 3 〜河原学園タウンミーティング〜		
第 70 回	2016.8.10	アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み~ 伊予太郎鉄道~		
第71回	2016.8.17	「もぶる Saturday」を振り返る		
第 72 回	2016.8.24	民泊・空家対策の取組		
第 73 回	2016.8.31	声優ワークショップ 1 期生座談会 ~		
第 74 回	2016.9.7	野志市長インタビュー Part 4 〜道後商店街タウンミーティング〜		
第 75 回	2016.9.14	新聞有志勉強会 WS		
第 76 回	2016.9.21	移動商売ってどんな仕事?		
第 77 回	2016.9.28	アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み〜 三津 (みつ) けた!私のまちの写真館〜		
第 78 回	2016.10.5	野志市長インタビュー Part 5 〜味酒地区タウン ミーティング〜		

放送回	放送日	放送内容		
第 79 回	2016.10.12	松山アーバンデザインセンター グッドデザイン 賞受賞		
第 80 回	2016.10.19	松山市民映画「ことばのおくりもの」		
第81回	2016.10.26	アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み〜 路地裏映画館 in 柳井町商店街〜		
第 82 回	2016.11.2	野志市長インタビュー Part 6 〜石井地区タウン ミーティング〜		
第83回	2016.11.9	子ども食堂		
第 84 回	2016.11.16	週末はまちなかで子育てをまなぶ		
第 85 回	2016.11.23	第2期アーバンデザインスクールを振り返る		
第 86 回	2016.11.30	アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み〜 ジモティ Life 松山〜		
第 87 回	2016.12.7	野志市長インタビュー Part 7 〜五明地区タウン ミーティング〜		
第 88 回	2016.12.14	クリスマスイベント@みんなのひろば		
第 89 回	2016.12.21	演劇教育		
第 90 回	2016.12.28	ラジオドラマ「架空のまち」		
第91回	2017.1.4	野志市長インタビュー Part 8 ~中島地区タウン ミーティング~		
第 92 回	2017.1.11	まちなかマガジン「もぶる」創刊		
第 93 回	2017.1.18	今治を元気にする豊島吾一さんにインタビュー		
第 94 回	2017.1.25	今治地方観光協会の関清剛さんにインタビュー		
第 95 回	2017.2.1	野志市長インタビュー Part 9 〜松山東雲女子大 学・松山東雲短期大学タウンミーティング〜		
第 96 回	2017.2.8	三津浜のまちづくり ~「島のモノ 喫茶 田中戸」 の田中章友さんにインタビュー~		
第 97 回	2017.2.15	三津浜のまちづくり ~革職人・寺阪司さんにイ ンタビュー~		
第 98 回	2017.2.22	未・来(ミラクル)Job まつやま		
第 99 回	2017.3.1	野志市長インタビュー Part 10 〜タウンミーティング 100 回記念特別企画及び松山東高校タウンミーティング〜		
第 100 回	2017.3.8	今治のまちづくり ~ギャラリー遊の高橋さんに インタビュー~		
第 101 回	2017.3.15	「お城下マルシェ」スタート		
第 102 回	2017.3.22	移住コンシェルジュが行く! Part1 ~西予地域 おこし協力隊の藤川さんにインタビュー~		
第 103 回	2017.3.29	今治のまちづくり ~木工屋の渡辺さんにインタ ビュー~		

7 おわりに

UDCM 副センター長 曲田 清維

3年目を迎えた UDCM は、新たなメンバー(小野悠、 新居田真美、小川直史)を加え、活動範囲や業務が大きく 広がるなかで、飛躍の年になった。

アーバンデザインスクールは、松山市の連携中枢都市圏 構想による周辺自治体との協働作業が盛り込まれ、松山 市に加え、伊予市、東温市におけるスクール開催が始まっ た。出張スクールが増えたものの、4大学の教員や自治体 職員、地域の方々の応援でユニークな成果が幾つも生まれ た。

「みんなの広場・もぶるテラス」は、前年と比し、格段 の利活用の拡大を見た。豊富な内容、多様な階層・人々の 利用は中心市街地にあって、自然でありつつも楽しい場づ くりが進んだ。

中心市街地の活性化については、市の銀天街L字地 区再開発等基本計画がまとまり、次なる具体化に伴って UDCM の役割も明確になった。また道後温泉地区の活性 化は「道後温泉別館 飛鳥乃湯泉」の建設開始により、周 辺整備の動きが加速された。

また、UDCMの広報は「まちなかマガジン【もぶる】」 の発刊など、ひと味異なる情報発信として充実したものと なってきた。

こうした一連の活動に対して、外部評価ともいえる嬉し い表彰の数々があった。

一つ目は、「ロープウエー街・大街道周辺地区」の都市 景観大賞の受賞である。UDCM の最初期の仕事であった 大街道入り口のデザインが「総合的な景観のマネージメン トを成功させ、賑わいを復活した、手作り的な景観・街づ くりの手本」と評された。

二つ目は、「もぶるテラス・みんなの広場」がまちなか 広場賞、それも大賞を受賞したことである。まちなかに あって子どもから高齢者まで集えるテラスと広場は、ささ やかでも着実な賑わいを作り出した。「日常的な広場の多 様な使われ方が魅力的であり、本来日本に息づいていた空 間を読み解く力、仮説的に場の領域やつながりを生み出 す力を利用者から上手く引き出している」ことは、実際 UDCM が目指すものでもある。

そして三つ目が、「松山アーバンデザインセンター」の 2016年度グッドデザイン賞受賞である。「ふらりと立ち 寄って、自分が住むまちの将来を考える拠点は、まちづく りに主体的に関わる住民を増やすという点で重要だ」との 指摘は、まちなかでの「もの・こと・ひと」のデザインを 仕事とする UDCM にとって、大いに意味あるものである。

三つの受賞は偶々とは言え、発足以来の3年を通じて、 UDCM が模索していた存立意義、活動の方向性、協働体 のあり方などについて、ささやかな確信にも繋がった。 「アーバンデザインセンター」が目指すべき「デザイン力」 「マネージメント力」、そして「賑わい力(もぶる力)」の あり得べき姿のひとつが見え始めたとも言える。

松山市の中心市街地の活性化は、依然として継続的課題 であるし、道後温泉はいよいよ改修のステップに入ってい く。ひと育ても含め、公民学の連携のもとに、着実な成果 を目指して活動・研究を進めていきたい。

UDCM 運営体制

都市再生協議会

公 松山市

民 商工会議所 (株) 伊予鉄道 まちづくり松山(株)

学 愛媛大学 松山大学



松山アーバンデザインセンター(UDCM)

羽藤 英二 (東京大学)

曲田 清維*(愛媛大学) 副センター長

シニアディレクター

小野 悠 *(愛媛大学)

浅子 佳英(愛媛大学) 新居田 真美*(愛媛大学)

羽鳥 剛史(愛媛大学)

アシスタントディレクター 小川 直史(愛媛大学) プロジェクトアドバイザー 松村 暢彦 (愛媛大学)

千代田 憲子(愛媛大学)

泉谷 昇(NPO いよココロザシ大学)

客員研究員 石飛 直彦((株)復建調査設計)

事務職員 大野 利恵 *(愛媛大学)

アーバンデザインスクール運営委員会

河内 俊樹(松山大学) 畔地 利枝(聖カタリナ大学) 直井 玲子(松山東雲女子大学)

賑わい再生社会実験運営スタッフ (みんなのひろば・もぶるテラス)

事務職員

青木 綾香 新田 琳

毛利 彩希 青野 史佳 瀬々 大樹 宮﨑 千夏 矢野 凌佑 髙橋 美有 弓削 穂乃香 大岡 航 尾崎 真由 石丸 響子 大河内 美帆 伊藤 心

青井 瑞樹

「まち@ラヂ」アナウンス部

市民スタッフ 荻山 紗英 平林 伊佐子 渡邊 紗弓

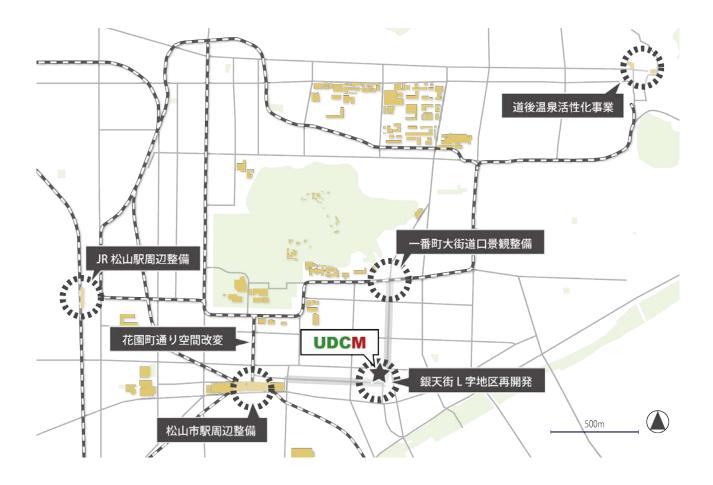
> 樋口 時子 藤川 真那

まちなかマガジン「もぶる」編集部

市民スタッフ 馬見 蒼 田村 順秋 權田 英二 国安 登 新田 琳 寺岡 新菜 倉瀨 和恵 弓削 穂乃香

板垣 義男 日野 順子 髙橋 映

活動フィールド -



受賞・論文一覧 -

- ○「まちなか広場賞」(公共空間の「質」研究部会 一般社団法人国土政策研究会 国土交通省所管) 大賞受賞, 2016.6
- ○「都市景観大賞(国土交通大臣賞)」(都市空間部門)受賞,2016.6.
- ○「グッドデザイン賞」(公益財団法人日本デザイン振興会主催)受賞,2016.9
- 片山由香,羽鳥剛史,河内俊樹,直井玲子:実践まちづくり学習の意義と課題-松山アーバンデザインスクールを対象 として-, 地域デザイン, No. 8, pp.189-208, 2016.
- 片岡由香,羽鳥剛史,羽藤英二:まちづくり実践学習のプログラム化と地域連携への展開可能性に関する研究,土木学 会論文集 D3(土木計画学), Vol.72, No.5, pp.523-532, 2016.
- 小川直史, 片岡由香, 羽鳥剛史: まちづくり担い手育成プログラムにおける学習プロセスに関する研究-松山アーバン デザインスクールの試み -, 土木計画学研究・講演集(Vol.53,CD-ROM. 北海道大学), 2016.5.

活動一覧

			運営全般		空間デザインマネジメント:「創る」
2016	APR	4.21 4.25	グッドデザイン質デザインセミナー 第 15 回 UDCM 運営会議	4.1 4.12 4.14 4.15 4.20 4.21 4.29	松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会(第 9 回理事会) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 9 回) 道後温泉冠山事務所協議 道後温泉冠山事務所協議 お城下松山文化・観光委員会 道後温泉冠山事務所協議 道後温泉辺山事務所協議 道後温泉辺山事務所協議 道後退攻近山事務所協議
	MAY	5.13-14 5.14 5.16 5.18 5.26 5.30	第4回アーバンデザインセンター会議(福島県田村市) 全国バスマップサミット 宇部市現象 社会共創学部講演 愛媛大学事報信会 第16回 UDCM 運営会議	5.10 5.10 5.12 5.15 5.19 5.20 5.30 5.31	道後温泉冠山事務所協議 道後温泉本館保存修復専門委員検討会議 椿の湯前ファサード勉強会 道後地区交通量調査 松山銀天街 L字地区再開発全体協議会(第10回理事会) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第10回) まちづくり2050ビジョンWG(第1回) 銀天街 L字地区再開発検討専門部会(第3回)
	ИПГ	6.9 6.9 6.10 6.30	「まちなか広場賞」大賞受賞 平成 28 年度第1 回防災情報研究センター運営委員会 「都市景観大賞」都市空間部門で国土交通大臣賞受賞 第17 回 UDCM 運営会議	6.8 6.9 6.14 6.15 6.18 6.22 6.23 6.24 6.28 6.29	若手経営者の生業とまち再生研究会(第 11 回)まちづくり 2050 ビジョンWG(第 2 回) 道後温泉冠山事務所協議 若手経管者の生業とまち再生研究会(第 12 回) 道後遺跡現地説明会 お城下松山文化・観光委員会 三津浜景観まちづくり勉強会(第 5 回) 道後地区交通打ち合わせ アーバンデザイン研究会(第 5 回)
	Jul	7.15 7.16 7.16 7.22 7.25 7.31	JCOMM 講演 草津市長米訪 大阪大学士井先生米訪 東京大学樋野先生米訪 第 18 回 UDCM 運営会議 坊ちゃん講演会参加	7.4 7.6 7.7 7.9 7.19 7.21 7.21 7.26 7.26	まちづくり 250 ビジョン WG(第 3 回) まちづくり 2050 ビジョン WG(意見交換) お城下松山文化・観光委員会 まちづくり 2050 ビジョン WG(意見交換) 道後温泉冠山事務所協議 まちづくり 2050 ビジョン WG(第 4 回) 道後温泉冠山事務所協議 おちが下松山文化・観光委員会 道後温泉活性化懇談会
	Aug	8.29	第 19 回 UDCM 運営会議	8.2 8.2 8.5 8.7 8.8 8.10 8.10 8.22 8.23 8.24	まちづくり 2050 ビジョン WG(第 5 回) 道後温泉冠山事務所協議 椿の湯前ファサード勉強会 アーバンデザイン研究会(第 6 回) 椿の湯前ファサード勉強会 着手経営者の生業とまち再生研究会(第 13 回) アーバンデザイン研究会(第 7 回) 道後温泉宮護会 道後温泉宮護会 道後温泉宮護会 地域と
	SEP	9.29	グッドデザイン賞受賞	9.1 9.2 9.8 9.9 9.11 9.13 9.15 9.15 9.22 9.28	まちづくり 2050 ビジョン WG(第6回) 銀天街上字地区再開発検討専門部会(第4回) 三津浜景観まちづくり勉強会(第6回) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第14回) R 松山駅西(板称)南江戸第1公園デザイン WS(第1回) まちづくり 2050 ビジョン WG(第7回) 道後温泉冠山事務所協議 まちづくり 2050 ビジョン WG(勉強会) 松山銀天街上字地区再開発全体協議会(第1回臨時総会) お城下松山文化・観光委員会
	ОСТ	10.5 10.5	散策集まち歩き 第 20 回 UDCM 運営会議	10.4 10.4 10.11 10.13 10.15 10.15 10.18 10.21 10.24 10.24 10.25 10.27 10.29-31	まちづくり 2050 ビジョン WG(第 8 回) 道後温泉審議会答申 まちづくり 2050 ビジョン WG(第 9 回) 用地対策連絡協議会講演 まちづくり 2050 ビジョン WG(意見交換) 花園町通りデザイン WS(第 4 回) 松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会(第 15 回理事会) 松山駅周辺策飾るふれるまちづくり推進協議会(第 5 回) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 15 回) 指手経営者の生業とまち再生研究会(第 15 回) 担米輸工予視察 富岡製糸場視察 まちづくり 2050 ビジョン WG(視察・神戸・吹田・和歌山・岐阜) 道後温泉冠山事務所協議
	Nov	11.7 11.10 11.17 11.25 11.26	日土小学校視察 第21回 UDCM 運営会議 第8回都市市生協議会 太陽エネルギー学会市民公開講座講演 四国技術士会まち歩き	11.6 11.7 11.14 11.16-18 11.20-21 11.27	お城下大学文化・観光委員会 椿の湯新湯ファサード勉強会 若手経管者の生業とまち再生研究会(第16回) まちづくり 2050 ビジョンWG(視察:新潟・三条・見附・長岡) まちづくり 2050 ビジョンWG(視察:東京・柏) JR 松山駅西(仮称)南江戸第1公園デザインWS(第2回)
	DEC	12.10 12.12 12.15 12.28	草津市アーバンデザインセンター講演 第 22 回 UDCM 運営会議 金亀ライオンズクラブ講演 新潟市会議員視察	12.2 12.6 12.7 12.8 12.8 12.10 12.13 12.14 12.15 12.17 12.20 12.21 12.26 12.26 12.28	アーバンデザイン研究会(第 8 回) 道後館包装機器組合講演 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 17 回) 松山銀天街 上字地区再開発全体協議会(第 16 回理事会) まちづくり 2050 ビジョン WG(第 10 回) 道後温泉沼山事務所協議 松山駅周辺拠点地区まちづくり勉強会(第 1 回) 道後温泉溶山事務所協議 お城下大学文化・観光委員会 松山駅周辺地区景観に関する意見交換会(第 1 回) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 18 回) 銀天街 L字地区再開発検討専門部会(第 5 回) まちづくり 2050 ビジョン WG(第 11 回) 道後温泉沼山事務所協議
2017	NAL	1.3 1.3 1.10 1.16 1.18 1.19	第3回松山愛郷会 U30 東京愛郷会ワークショップ 景観賞&シンボジウム 第33回 UDCM 運営会議 高齢者大学講演 平成 28 年度第2回防災情報研究センター運営委員会	1.11 1.17 1.18 1.23 1.25	椿の渦新渦ファサード勉強会 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 19 回) まちづくり 2050 ビジョン WG(第 13 回) まちづくり 2050 ビジョン WG(第 14 回) お城下松山文化・観光委員会
	FEB	2.2 2.6 2.13	字都宮市視察 東京ミッドタウン・デザインハブ講演 大阪市視察	2.3 2.5 2.10 2.15 2.23	松山銀天街 L 字地区再開発全体協議会(第 2 回臨時総会) お城下松山文化・観光委員会 子規博械交差点信号現示変更協議 松山市駅前広場デザイン WS(第 3 回) 道後温泉冠山事務所協議
	MAR	3.17 3.21 3.29	第 24 回 UDCM 運営会議 平成 28 年度防災情報研究センター外部評価委員会 板橋区議員視察	3.3 3.10 3.12 3.20 3.22-23 3.25	道後温泉冠山事務所協議 まちづくり 2050 ビジョン WG(第 15 回) JR 松山駅西(仮称)南江戸第1 公園デザイン WS(第 3 回) まちづくり 2050 ビジョンワーキンググループ(意見交換) 若手経営者の生業とまち再生研究会(第 20 回)(尾道複察) 街なか再生サポーター会議(第 1 回)

	まちづくりの担い手育成:「学ぶ」		賑わいの創出:「交わる」		情報発信:「知る」
4.8 4.22	松山アーパンデザインスクール(第 10 回) 松山アーパンデザインスクール(第 11 回)	4.23 4.24 4.27	ひろばのふぁーむ レゴで、あそんでまちづくり♪ 社会実験運営委員会(第 18 回)	4.6 4.13 4.20 4.27	「まち@ラヂ」番組 MC の紹介 「まち@ラヂ」松山アーパンデザインセンターの新スタッフの 紹介 vol.1 「まち@ラヂ」松山アーパンデザインセンターの新スタッフの 紹介 vol.2 「まち@ラヂ」松山アーパンデザインセンターの新スタッフの 「まち@ラヂ」松山アーパンデザインセンターの新スタッフの
5.13 5.27	松山アーパンデザインスクール(第 12 回) 松山アーパンデザインスクール(第 13 回)	5.8 5.11 5.21 5.22 5.25 5.25	ひろばのふぁーむ ハッピー絵本ライブ みんなのひろばで動物とふれあおう! レゴで、あそんでまちづくり♪ ハッピー絵本ライブ 社会実験運営委員会(第 19 回)	5.4 5.10 5.11 5.18 5.24 5.25	紹介 vol.3 「まち@ラヂ」松山アーパンデザインセンターの新スタッフの 紹介 vol.4 編集 WS 「まち@ラヂ」みんなのひろばの「ミニかかし企画」 「まち@ラヂ」ひろばのふぁーむプロジェクト 編集 WS 「まち@ラヂ」レゴであそんでまちづくり♪
6.10 6.18 6.24 6.25	松山アーパンデザインスクール(第 14 回) 「椿のおもてなし」土曜夜市プース出展 松山アーパンデザインスクール(第 15 回) 「椿のおもてなし」土曜夜市プース出展	6.5 6.8 6.12 6.14 6.18 6.22 6.25 6.29	ひろばのぶぁーむ ハッピー絵本ライブ レゴで、あそんでまちづくり♪ モバイル屋台プロジェクト 夏だ! 薄だ! ぁ、噴水だ! ハッピー絵本ライブ るんるんパルーン♪ 社会実験運営委員会(第 20 回)	6.1 6.8 6.14 6.15 6.22 6.28 6.29	「まち@ラヂ」松山アーバンデザインセンターの新スタッフの紹介 「まち@ラヂ」アーバンデザインスクールの取り組み 編集 WS 「まち@ラヂ」土曜夜市の企画紹介 「まち@ラヂ」もぶるテラスの日常 編集 WS 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 1
7.2 7.8 7.9 7.10 7.16 7.18 7.22 7.23 7.30	「椿のおもてなし」土曜夜市ブース出展 松山アーバンデザインスクール(第 16 回) 「椿のおもてなし」土曜夜市ブース出展 松山 UDS 中間発表会 「椿のおもてなし」土曜夜市ブース出展 「椿のおもてなし」主曜夜市ブース出展 松山アーバンデザインスクール(第 17 回) 「椿のおもてなし」土曜夜市ブース出展 「椿のおもてなし」土曜夜市ブース出展	7.1-7 7.2 7.9 7.13 7.16 7.17 7.17 7.22 7.23 7.27 7.27 7.30	管に願いを お休み処もぶる 夏だ! 海だ! あ、噴水だ! ハッピー絵本ライブ まちなかペラ♪ ひろばのふぁーむ 夏のあそびかた 夏だ! 海だ! あ、噴水だ! ハッピー絵本ライブ 社会実験運営委員会(第 21 回) トゥばん正であそばう	7.6 7.13 7.20 7.26 7.27	「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 2 「まち@ラヂ」アフリカ都市を語る Part1 「まち@ラヂ」アフリカ都市を語る Part2 編集 WS 「まち@ラヂ」まちづくりに携わる研究者の紹介 Part1
8.1-2 8.6 8.19 8.24 8.27	「椿のおもてなし」道後温泉夏祭りプース出展 ふるどうぐ市 松山アーパンデザインスクール(第 18 回) 東温アーパンデザインスクール(第 1 回) 「椿のおもてなし」円満ご長寿まつり出展	8.1-2 8.6 8.10 8.13 8.17 8.24 8.28	海の家@もぶるテラス レゴで、あそんでまちづくり♪ まちなか発見! 子ども新聞記者&まわしよみ新聞 辞書といっしょに、おやこでまちなか探検! ハッピー絵本ライブ ハッピー絵本ライブ ひろばのふぁーむ	8.3 8.9 8.10 8.17 8.23 8.24 8.31	「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 3 〜河原学園タウンミーティング〜 編集 WS 「まち@ラヂ」アーバンデザインスクール 2 閉生の取り組み〜 伊予太郎鉄道〜 「まち@ラヂ」「もぶる Saturday」を振り返る 編集 WS 「まち@ラヂ」民治・空家対策の取組み 「まち@ラヂ」声優ワークショップ 1 期生座談会
9.2 9.8 9.10 9.16 9.21 9.21 9.23 9.28	松山アーパンデザインスタール (第19回) 伊予アーパンデザインスタール (第1回) 東温アーパンデザインスタール (第2回) 松山アーパンデザインスタール (第20回) いもたき会 東温アーパンデザインスタール (第3回) 伊予アーパンデザインスタール (第2回) 東温アーパンデザインスタール (第4回)	9.10 9.14 9.19 9.28 9.28	レゴで、あそんでまちづくり♪ ハッピー絵本ライブ お手玉をはんこ WS(なつかし遊び商店街) ハッピー絵本ライブ 社会実験運営委員会(第 22 回)	9.6 9.7 9.14 9.20 9.21 9.28	編集 WS 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 4 ~道後商店街タウンミーティング~ 「まち@ラヂ」新聞有志勉強会 WS 編集 WS 「まち@ラヂ」移動商売ってどんな仕事? 「まち@ラヂ」を動商売ってどんな仕事? 「まち@ラヂ」アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み~三津(みつ)けた! 私のまちの写真館~
10.2 10.7 10.8-9 10.16 10.19 10.21 10.26-30 10.28	秋祭り 伊予アーパンデザインスクール(第3回) 写真撮影会 in みつはま まつトラムラリー 伊予アーパンデザインスクール(第4回) 東温アーパンデザインスクール(第5回) みつはま「私のまちの写真展」 松山アーパンデザインスクール(第21回)	10.12 10.21 10.26 10.26 10.29-31	ハッピー絵本ライブ POP UP LIBRARY ☆ BOOK SHARE CAF ハッピー絵本ライブ 社会実験運営委員会(第 23 回) まじょのぼうしをつくろう(まちなかてくてくハロウィン)	10 10.4 10.5 10.12 10.12 10.19 10.22 10.23 10.26	まちなかマガジン【もぶる】創刊号出版 編集 WS 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 5 ~味酒地区タウン ミーティング~ 「まち@ラデ」松山アーバンデザインセンター グッドデザイン 賞受賞 編集 WS 「まち@ラヂ」松山市民映画「ことばのおくりもの」 声優 WS 「まち@ラヂ」アーバンデザインスクール 2 期生の取り組み~ 路地裏映画館 in 柳井町高店街~
11.2 11.3 11.3 11.11 11.16 11.18 11.18 11.25 11.26 11.30	伊予アーバンデザインスクール(第5回) 親子で映画を撮るう 路地裏映画館 in 柳井町商店街 東温アーバンデザインスクール(第6回) 伊予アーバンデザインスクール(第6回) 松山アーバンデザインスクール(第22回) 未・来」のトビジネスプランコンテスト「最優秀賞」受賞 東温アーバンデザインスクール(第7回) 松山アーバンデザインスクール最終報告会 伊予アーバンデザインスクール(第7回)	11.9 11.12 11.15 11.18 11.25 11.26 11.27 11.30	ハッピー絵本ライブ レゴで、あそんでまちづくり♪ お気楽写真教室 POP UP LIBRARY ☆ BOOK SHARE CAF ハッピー絵本ライブ 週末はまちなかで子育でをまなぶ MOBURU DIY CLUB 社会実験運営委員会(第 24 回)	11 11.2 11.2 11.9 11.13 11.16 11.23 11.30	まちなかマガジン【もぶる】 2 号出版 声優 WS 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 6 ~石井地区タウン ミーティング~ 「まち@ラヂ」子とも食堂 声優 WS 「まち@ラヂ」週末はまちなかで子育でをまなぶ 「まち@ラヂ」第 2 別アーバンデザインスクールを振り返る 「まち@ラヂ」アーバンデザインスクール 2 別生の取り組み~ ジモティ Life 松山~
12.4 12.9 12.14	広島県民みかん de 交流会 東温アーパンデザインスクール(第 8 回) 伊予アーパンデザインスクール(第 8 回)	12.7 12.10 12.16 12.18 12.18 12.21-25 12.21 12.24 12.25 12.27	ハッピー絵本ライブ 週末はまちなかで子育てをまなぶ POP UP LIBRARY☆ BOOK SHARE CAF Early Christmas Time レゴで、あそんでまちづくり♪ モールの飾りつくり(てくてくクリスマス) ハッピー絵本ライブ 週末はまちなかで子育てをまなぶ MOBURU DIY CLUB ひろばのふぁーむ	12.3 12.4 12.6 12.7 12.11 12.14 12.21 12.28	声優 WS 声優 WS 編集 WS 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 7 ~五明地区タウン ミーティング~ 声優 WS 「まち@ラヂ」クリスマスイベント@みんなのひろば 「まち@ラヂ」演劇教育 「まち@ラヂ」ラジオドラマ「架空のまち」
1.11 1.20 1.25 1.28-29	伊予アーバンデザインスクール(第 9 回) 東温アーバンデザインスクール(第 9 回) 伊予アーバンデザインスクール(第 10 回) 『市花「つばき」でおもてなし』出展	1.4-31 1.11 1.14 1.15 1.15 1.20 1.22 1.25 1.25 1.28	外国ぶらり絵本たび ハッピー絵本ライブ 週末はまちなかで子育でをまなぶ レゴで、あそんでまちづくり♪ 新年 夢書初め POP UP LIBRARY ☆ BOOK SHARE CAF MOBURU DIY CLUB ハッピー絵本ライブ 社会実験運営委員会(第 25 回) 週末はまちなかで子育でをまなぶ	1.4 1.11 1.18 1.25	「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 8 ~中島地区タウンミーティング~ 「まち@ラヂ」まちなかマガジン「もぶる」創刊 「まち@ラヂ」今治を元気にする豊島吾一さんにインタビュー 「まち@ラヂ」今治地方観光協会の関清剛さんにインタビュー
2.3 2.17 2.26	東温アーパンデザインスクール(第 10 回) 伊予アーパンデザインスクール(第 11 回) 郡中まちクエスト	2.8 2.18 2.22 2.22 2.24	ハッピー絵本ライア MOBURU DIY CLUB ハッピー絵本ライブ 第 26 回社会実験運営委員会 POP UP LIBRARY☆ BOOK SHARE CAF	2 2.1 2.2 2.8 2.15 2.22	まちなかマガジン【もぶる】3号出版 「まち@ラヂ」野志市長インタビュー Part 9 ~松山東雲女子大 学・松山東雲短期大学タウンミーティング~ 編集 WS 「まち@ラヂ」三津浜のまちづくり~「鳥のモノ 喫茶 田中戸」 の田中章友さんにインタビュー~ 「まち@ラヂ」三津浜のまちづくり~寺阪司さんにインタビュー~ 「まち@ラヂ」 未来(ミラクル)Job まつやま
3.3 3.23	伊予アーパンデザインスクール(第 12 回) 伊予アーパンデザインスクール(第 13 回)	3 3.8 3.19 3.22 3.24 3.25 3.30	駐車場 Map づくり ハッピー絵本ライブ お城下マルシェ ハッピー絵本ライブ POP UP LIBRARY ☆ BOOK SHARE CAF MOBURU DIY CLUB 第 27 回社会実験運営委員会	3.1 3.8 3.15 3.22 3.29	「まち@ ラヂ」野志市長インタピュー Part 10 ~ タウンミーティング 100 回窓会物別金両及び松山東高校タウンミーティング~「まち@ラヂ」今治のまちづくり~ギャラリー遊の高橋さんにインタビュ~ 「まち@ラヂ」お城下マルシェ 「まち@ラヂ」移住コンシェルジュが行く! 「まち@ラヂ」移位コンシェルジュが行く! 「まち@ラヂ」冷治のまちづくり~木工屋の渡辺さんにインタビュー~



〒 790-0012 愛媛県松山市湊町 3 丁目 7 番地 12

TEL 089-968-2921

E-MAIL udcm.matsuyama@gmail.com

HP http://udcm.jp

FACEBOOK https://www.facebook.com/UDCMatsuyama/

TWITTER https://twitter.com/UDCMatsuyama